

《特集：'85ニューモデル勢ぞろい!》

4サイクル・スーパークォーター

FZ250 PHAZER

デイパック・スクーター

BOX'n

テイスティ・シングル

SR400/500



最強のパフォーマンスと新感覚のスタイリングで新登場! 4サイクル・スーパークォーター FZ250 PHAZER

●カラー：シルキーホワイト

●標準現金価格：499,000円（北海道、沖縄は6,000円高）



16000r.p.m.の興奮！——発売前から大きな話題を呼んでいるヤマハ初の4サイクル・スーパークォーター『FZ250フェーザー』が4月1日より新登場します。「FZ750」と同じジェネシス・コンセプトのもとに、最高のパフォーマンスと操縦安定性を追求して実現した異次元のマン・マシン一体感。そして、ポストレーシー時代の幕開けを告げるハイブリッドシェイプ・カウルの斬新なスタイル——スポーツバイク市場の中心として、ことしも一層の拡大が期待される250ccクラスに、注目度No.1モデル『FZ250フェーザー』のデビューです。



最強のパワーを発揮する水冷・4サイクル・4気筒・DOHC・16バルブ

4サイクル版RZ。をテーマに新開発した軽量・コンパクト設計のエンジンは、45PS/14500r.p.m.の最高出力、2.5kg-m/11500r.p.m.の最大トルクというクラス最強のパワーを発揮します。この高性能は——水冷・4気筒・DOHC16バルブというハイメカニズムの採用。45度前傾シリンダーによって実現した7.1ℓ大容量エアクリナーから4連BDSキャブレターへのストレートなダウンドラフト吸気と排気脈動効果の高い4into1マフラーによる吸・排気効率の飛躍的な向上。クロモリ・コンロッドの採用をはじめとするエンジン内部運動系の軽量・小型化による徹底的なパワーロスの低減——等によって実現したものの。そのハイパワーも去ることながら、粘りよい中低速から16000r.p.m.のレッドゾーンまで、ストレスをまったく感じさせることなくグングンと伸び上がっていくバワフルなフィーリングもまた『FZ250フェーザー』の大きな魅力です。

電動冷却ファン、サーモスタット装備のクロスフロータイプ・アルミラジエーター

すぐれた操安性を生み出す角型断面高張力鋼管ワイドフレーム

コンパクトなワイドタイプ・ダブルクレードルフレームは、シンプルかつ合理的レイアウトで軽量化と高剛性を両立。ダウンチューブは、左側を冷却水通路に、また右側をボルトオンタイプとして整備性を高めています。

シャープな走りを支える前後サスペンション

35φインナーチューブ装備のフロントフォークには、Duメタルも採用して作動性を向上。リヤのド・カルボンタイプ・リンク式モノクロスサスペンションは、7段階のイニシャル調整付です。

軽快・俊敏なフットワーク

前傾・低重心エンジンによって実現した低重心化、重量マスの集中、理想的な前後ほぼ均等の重量配分と1350mmのショートホイールベース、前後16インチホイール、51度のバンク角等が相まって、きわめて軽快・俊敏でしかも安定性の高いフットワークを発揮します。

75mmの低シート高とスリムなライティング・ポジション

ストップパワーも強力な、対向ピストンキヤリバー・セミメタルパッド装備のフロントダブルディスクブレーキ

60W/55W、カウリング一体型のハロゲン・ヘッドランプ

レーシーを超えた“速さ”を表現ハイブリッドシェイプ・カウル

『FZ250フェーザー』の“顔”は、ヘッドランプ、カウリング、燃料タンクカバーを一体化したハイブリッド・シェイプカウル。斬新な造型美とあわせて、CdA値0.29というすぐれたエアロダイナミクス効果も生み出しています。加えて、前

方にエアクリナー、後方に12ℓ容量の燃料タンクを内蔵したタンクカバーは、カウルと一体化した両サイド部分と、上面部からなる3ピース構成。万一の転倒時にも、ダメージを最小限に抑えます。

空力特性、被視認性にボディバンパー機能もプラスしたビルトオン・フラッシュランプ

アルミダイキャスト製 フートレスト

■FZ250フェーザー仕様諸元

- 全長1950mm●全幅690mm●全高1060mm●シート高750mm●軸間距離1350mm●最低地上高130mm●乾燥重量138kg●舗装平坦路燃費51km/ℓ(50km/h)●最小回転半径2.6m●制動停止距離14m(50km/h)
- 水冷・4サイクル・DOHC・4バルブ・並列4気筒・249cc●内径×行程48×34.5mm●圧縮比12●最高出力45PS/14500rpm●最大トルク2.5kg-m/11500rpm●始動方式セル式●潤滑方式強制圧送ウェットサムプ●ラジエーター容量0.3ℓ●エンジンオイル容量2.7ℓ●エレメント不織布●燃料タンク容量12ℓ●キャブレターBDS26×4●点火方式トランジスタ●点火プラグG1、G2、G3●バッテリー容量12V10Ah●1次減速(比)ギヤ(2.542)●2次減速(比)チェーン(3.058)●変速機リターン式6段●変速比①3.090②2.214③1.777④1.500⑤1.315⑥1.173●高張力鋼管ダブルクレードル●キャスト25°45'●トール80mm●タイヤ(前)100/80-1650S(後)120/80-1660S●ブレーキ(前)油圧式ダブルディスク(後)ドラム●緩衝方式オイルダンパー+コイルスプリング(前後とも)●ヘッドランプ12V60W55W(ハロゲン)●ストップランプ12V21W●フラッシュランプ12V21W●テールランプ12V5W●マーカランプ12V3.4W

スクーター
機能

box'n

ホワイト/レッド、セラミックホワイト/ブルー ●標準現金価格：139,000円(北海道、沖縄は3,000円高)



スクーター市場を喚起する本格“収納”

●カラー：セラミックホワイト

スクーターでは初の本格的“収納、機能を備えて、デイパック・スクーター『ボックス』が、4月1日より新登場します。軽快で、快適な走りに“運ぶ”、“保管”するという新機能をプラスして、スクーターの便利さ、楽しさを何倍にも拡大した『ボックス』。その“新機能”は、これまでのスクーターに満足しきれなかったお客さまや、新しいスクーターライフをクリエイトしようとするヤングなど幅広い需要を掘りおこし、'85スクーター市場を大いに活気づけるものです。

スクーター初の

本格“収納、スペース

シートを開けると大きな収納スペースが現われます。書類、雑誌、レインウェアなどの小物類からフルフェイス・ヘルメットまで収納可能。汚れや水濡れはもちろん、キーロック式ですから盗難の心配も無用。ソフトな内装材で収納物へのキズ付も防止しています。

パワフル5.8馬力エンジンで

なめらかなで、ゆとりある走り

5.8 P S / 7000r.p.mのハイパワーを発揮する7ポート・トルクインダクションエンジンと定評のVベルト式自動無段変速の組み合わせで発進、加速、登坂、クルージング……どんな走りもパワフルに、スムーズに、余裕を持ってこなします。1ℓ当り90km(30km/h定地テスト値)の経済性も魅力です。

快適で、安定した走行フィーリング

フロント2.75-10、リア3.00-10のスポーツパターンタイヤ、後部サポート付大型シート、バイプレスリンク式エンジン懸架が相まって快適な走り、すぐれた操縦安定性を生み出しています。

自由な乗車姿勢がとれる

広びろフットスペース

長身の方でも無理なく、自由なライディングポジションがとれる広いフットスペース。ス

テップマットも標準装備しています。

機能的で見やすいメーターパネル

メーターパネルには、スピードメーター、電気式フェルメーター、走行距離計、速度警告灯、オイル警告灯を機能的に配置。表示もきわめて読みとりやすくしています。

ハイテック感覚のボディカラー

セラミックホワイトのボディに、レッドとブルーのグラフィック、ハイテック感覚いっぱい「ボックス」です。

シートロッカー一体式

ヘルメットホルダー

デザインポイントも兼ねた

ハンドルスタンディング

被視認性の高いビルトインタイプの

テール&フラッシャーランプ

精悍な

ブラック角型ミラー

若々しい

スポーツバイク風マフラー

スポーティな

セラミックホワイト・ホイール



■ボックス仕様諸元

- 全長1640mm ●全幅630mm ●全高960mm ●シート高720mm ●軸間距離1115mm ●最低地上高95mm ●乾燥重量55kg ●舗装平坦路燃費90km/ℓ(30km/h) ●最小回転半径1.6m ●制動停止距離3.5m(20km/h)
- 2サイクル・ピストンリードバルブ・単気筒・49cc ●内径×行程40×39.2mm ●圧縮比6.5 ●最高出力5.8PS/7000rpm ●最大トルク0.61kg-m/6000rpm ●始動方式セル ●オイルタンク容量1.2ℓ ●エレメント湿式ウレタンフォーム ●燃料タンク容量3ℓ ●キャブレターY12P ●点火方式CDI ●点火プラグBP5HA ●バッテリー容量12V 4Ah ●1次減速(比)ギヤ(3.500) ●2次減速(比)ギヤ(3.454) ●変速機Vベルト式無段変速 ●変速比2.520-0.900 ●フレーム鋼管バックボーン ●キャスト27" ●トレール68mm ●タイヤ(前)2.75-10-2PR(後)3.00-10-2PR ●ブレーキドラム ●緩衝装置(前)コイルスプリング(後)オイルダンパー+コイルスプリング
- ヘッドランプ12V 25W ●ストップランプ12V 21W ●フラッシャーランプ12V 8W ●テールランプ12V 5W

ON AIR

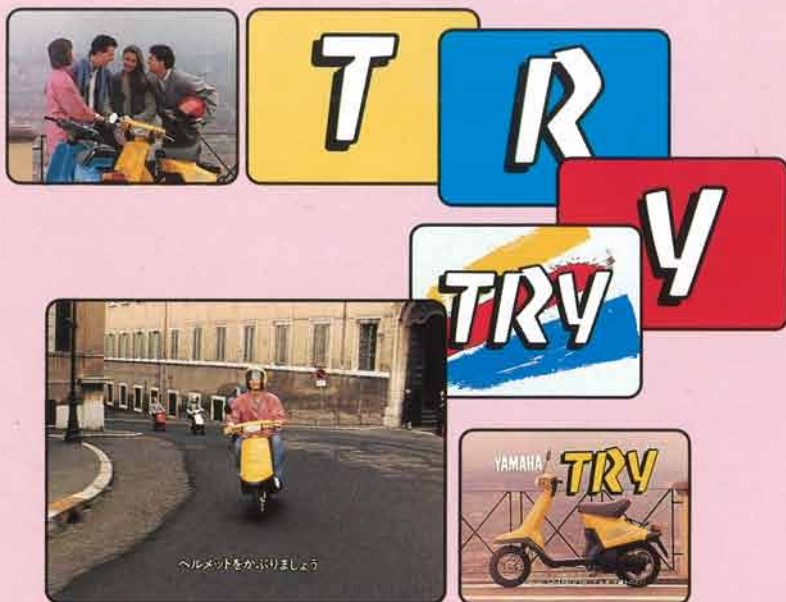
この春、スクーターの話題をさらう TRY&Box'nテレビCF

トライ&ボックスン——話題のニュースクーターの新発売にあわせて、テレビCFもオンエア、お茶の間にまたまた楽しい話題を投入します。

軽やかなフットワークでローマの街を駆けまわるトライ、ユニ

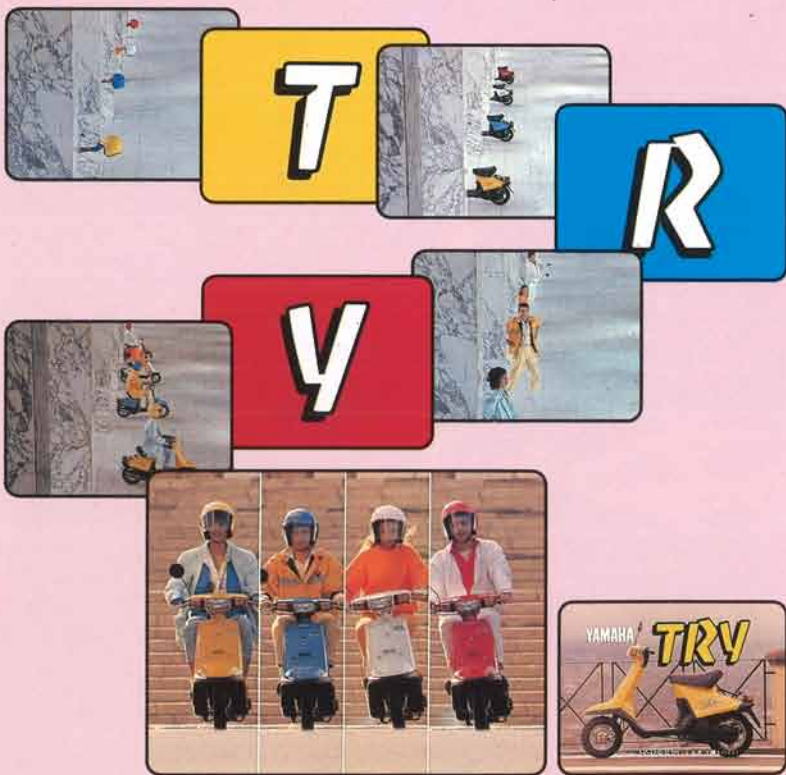
ークな「収納、機能をコミカルに表現したボックスン——話題いっばいのテレビCFで、春のスクーター商戦を盛り上げてください。

なお各CFはスポットを中心に放映する他、ヤマハ提供番組『月曜ロードショー』（月曜、午後9時、TBS系）でもオンエアされます。



ヘルメットをかぶりましょう

さあ、トライが街をくすぐるぞ。



*"This is a box.
I put this box
into the scooter!"*



"Oh my God!"



*"Oh where
is the box?"*



"Suprised Suprised!"





よりトラディショナルに……SR400/500新登場

- カラー：[SR400]インジゴブルー/メイプルレッド [SR500]インジゴブルー
- 標準現金価格：[SR400]399,000円(北海道、沖縄は6,000円高) [SR500]430,000円(北海道、沖縄は7,000円高)

乗り手とつくり手が年月をかけてじっくりと熟成しているロングセラーモデル「SR400/500」が、トラディショナルに磨きぬかれて4月15日より新発売となります。

モーターサイクルの原点ともいえるシンプルでスリムなボディ・フォルム、ビッグシングルならではのかぶよい乗車感……時代をこえてライダーの心をとらえつつける「SR」の本質を、さらに追求したニュー「SR400/500」の登場です。



1. エンジンの耐久性向上

カムシャフトのパーカー処理をはじめ細部の改良によってエンジン耐久性を向上させています。

2. 前傾化してよりスポーティになったライディング・ポジション

ハンドル幅を狭め、グリップ位置も低下、さらにフットレストを120mm後方に移動して、よりスポーティなポジションとしています。

3. 18インチフロントホイールの採用

フロントホイールを19吋から18吋化。同時に前後ともアルミ中空リムを採用してバネ下重量を軽減。タイヤもメッツラーを標準装備としています。

4. 200φ大径ドラム・フロントブレーキ採用

フロントには、ツーリーディング式大径ドラムブレーキを装備。ブレーキフィードバックも、ま

た外観上からもトラディショナルなイメージをつよめました。

5. 14ℓに容量アップしたフェルタンク

6. フラット表面のウーリーナイロン・シート

7. 白色文字盤のスピード&タコメーター

8. フロント・フォーク・ブーツ標準装備

9. ボールジョイントタイプの角形バックミラー

丸型ヘッドランプ・タイプを追加 SRX250



ライトスポーツSRX250に丸型ヘッドランプ・タイプが追加されます。市場のニーズに応じて登場するこのニュータイプは、シンプルなSRX250の魅力を一層ひきたてるものです。お客さまへのご案内、よろしくおねがいいたします。

ニューカラーで新登場 RZ250R



シンプルな2スト・スーパーオートーとして人気の高い「RZ250R」が、ご覧のように、カラーリング、グラフィックを一一新して新登場します。

斬新なスタイルがいかにもヤマハラしい「FZ250フェーザー」にまたがる川上源一ヤマハ発動機会長

ヤマハ発動機幹部たちも大きな期待を込めて販売店さんの走りを見守っていた江中秀人社長を中央に、左から田中俊二、塩川信夫副総経理、右、執印司副社長、長瀬國彦取締役



《特集》'85ニューモデル勢ぞろい 確かめた、その走り!

先にご案内の『トライ』『SRX400/600』『FZ750』にひきつづき、『ボクソン』『FZ250フェーザー』も登場して、いよいよ話題の'85ニューモデルの勢ぞろいです。
この機会にヤマハでは、販売にたずさわるすべての方がたに、これらニューモデルの高度な商品性をしっかりと確かめていただくべく、昨年ひきつづいて静岡県袋井市のヤマハコースを中心に「新商品発表試乗会」を開催してまいりました。その中から販売店社長さま、従業員さん、ヤマハセールスチームメンバー……みなさんが、その手でつかんだ'85ニューモデルの確かな手応えを今月はまとめてご紹介いたします。春商戦のスタートダッシュに、どうぞお役立てください——



軽快な走り、シャれたスタイル 手頃な価格、3拍子そろった TRY

軽快でしかも安定した走り、ヤングの感覚にピッタリのスリムでユニークなスタイル、そして99,800円の手頃な価格……社長さんも従業員さんも、ヤマハマンもトライの商品力には大いに自信を深められた様子。「ヤングから婦人層まで幅広く売れるヨ！」の声が異口同音にとびかっています。



●販売店社長さんのTRYインプレッション

軽さ、加速感、安定性、これならヤングから婦人層まで勧められます

し やれたカンジ、まとものあるデザインですね。加速もズバ抜けているし強力な新商品だと思いますよ。当面のターゲットはヤングだとしても、トライなら男女を問わず、息長く売れるでしょう。

■うさぎや輪業（大阪府） 寄田好治社長

振 動もなく、見た目よりも実際に走ってみると本当に安定しているんですね。これならヤングばかりでなく、相当幅広い層に売れると思います。なにしろ、年配の婦人ユーザーがチャップに乗って買い物に出かける時代ですからね。

■岩根オート（大阪府） 岩根教弘社長

加 速がすばらしい。スタートでもアクセルを開けるとグングン加速していきますからね。ハンドリングも軽快。これだけ扱いやすければ、女性にもウケますよ。絶対に。

■縷杉山・天白支店（名古屋市中） 赤羽根博高店長



●販売店従業員さんのTRYインプレッション

スリムなスタイルと抜群のフットワークでヤングの感性にジャスト・フィット！

今 までとちよつと違う感じの走りですね。軽さがとっても印象的なんです

が、それでいて走りが安定している。フットワークも最高でヒラヒラ感も存分に楽しめます。思いっ切りスリムなデザインもヤングの感性にピッタリなんじゃないですか。

■オートショップクラウド（千葉県） 沼尻高司さん

し スポンスの良さはスポーツバイク。なんといっても加速の良さがトライのセールスポイントですね。9万9800円という価格もヤングの「道具」としては手頃だし、売れると思います！

■YSP新宿（東京都） 斉藤正穂さん

●ヤマハマンのTRYインプレッション

走り、デザイン、価格……自信をもって勧めます

軽 快な吹き上がり、とても良くまわるエンジンですね。体重70キロの私でもスイスイ加速していく。とくにスタート時のフロントの浮くようなカンジは、ヤングにはたまらないんじゃないですか。

■横田自動車（栃木県） 市田滋朗セールス

振 動もないし、とてもスムーズな走りです。デザインもスリムだし、案外女性層に受けそうですね。価格帯からいっても旧JOGと同じ9万9800円。一番売りやすいポジションだと思います。

■ヤマハ東京（東京都） 城北営業所・岩淵達也セールス



トライ&ボックス・プロジェクトリーダーからひと言



**ヤングの感性を吸収してつくり上げた
トライ&ボックス**

トライとボックスの開発は、ヤングの感性を最も重視して、それを可能な限り商品づくりに反映させることを第一に考えました。

そのために、女性3名を含むヤング・プロジェクトチームを編成して、直接都会のヤングの中にとび込んで、彼らの趣味やニーズを肌で吸収してきました。

そんな中から生まれたトライ&ボックス。ヤングの感性にぴったりのスタイル、すぐれた走り機能、そして手頃な価格。これがトライとボックスの3拍子そろった魅力だと自負しています。

■長浜三男（第4技術部・課長）

●販売店社長さんのボックス・インプレッション

ヤングから年配のお客さままでを
カバーする走りのよさと機能性

ボ リユームのあるデザインがいいね。それでいて取りまわしも楽だし、走りもいい。走り、軽さ、使い勝手、そしてデザインと、すべての条件が揃ってるんじゃないですかボックスには。これならヤングから年配のお客さままでしっかりとフォローできます。

■YSP静岡(静岡市) 清水忠さん

モ ノを積んでいるのがハタから見てもわからないというのがいいですね。クルマも大柄な割に加速もいい。売りやすいと思うし、また新しいユーザーも掘り起こせるんじゃないですか、そう思います。

■アラビヤ(大阪府) 杉本好彦社長



●販売店従業員さんのボックス・インプレッション

十分な車格にボックス機能
そのうえ走りはJOGクラス!

ボ ックス機能が一番のセールスポイントになるでしょうね。でも乗ってみるとすごく乗り心地のいいスクーターだなって思う。シート座り心地もゆったりしていてとてもいい。お客さまの志向がどんどん変わっていきますからね、一歩進んだカンジで、ボックスはこれからの市場にピッタリだと思います。

■ホンダモーターズ(神奈川) 宮田順子さん

こ れだけ立派な車格にボックス機能までついて、おまけに走りはJOGと変わらない。じつにいいスクーターですよ。小物類やカッパがそのまま収納できるので、通勤などにスクーターを使うお客さまには、最適ですね。

■荻山商会(東京都) 木村尚平さん



狙いの明快なスクーター ヤングから中高年まで幅広く売れる Box'n

ボックスのユニークなリヤスタイルは、試乗前から話題のマト。しかし十分な収納能力と安定した走りを確認されたみなさんの印象は、「商品の意図がはっきりしているので売りやすい」「機能だけでなく走りもすばらしいので幅広く売れそう」「ボックスでまた新しいスクーター需要が掘りおこせそう」と意欲的なものばかりです。

●ヤマハマンのボックス・インプレッション

新機能
の発想がいい!

軽 さや速さ以外のところに、売れどころを求めた発想がいいですね。それでいて走りも相当にいい。この安定したスタイルとユニークなボックス機能は、通勤などにスクーターを使う中高年の方から手荷物をさらうヤングまで、幅広く受け入れられると思います。

■ヤマハ東京(西東京支店) 八王子営業所・鈴木正人セールス





●販売店社長さんの

SRX400/600インプレッション

シンプルなかかと

最新鋭感覚のみごとなマッチング

い 一番先鋭的な感覚と伝統的なモーターサイクルの味わいを結合させると、なるほどこうなるのか、そんなカンジのSRX400と600ですね。単気筒のニューモデルとしてとっても高い完成度で仕上がっていると思います。メカ好きのお客さんにはたまらないニューモデルですよ。

■モーターサイクル亀谷(奈良県) 亀谷孝一社長

シ ングルの持ち味を100%活かした軽快なコーナリングと操安性を私も満喫しました。いまのSRユーザーにも走りを楽しんで結構多いんですよ。そんな人にもすめたいですね。アダルトライダーもテイストを楽しめるのはアメリカン一辺倒じゃなくて、SRXでぜひ気分一新して欲しいですね。

■YSP岐阜南(岐阜県) 河合明社長

見 た目の重厚さと取りまわしの軽さ、シングルスポーツが進化するところなるんだな、って納得させてくれるようですね。ポジションも楽なうえ15ℓとタンク容量も十分だし、ツーリングにも最適ですよ。

■YSP寝屋川(大阪府) 石重和社長

シングルならではの軽快なコーナリングと操安性。
これは、スーパースポーツ・シングルだ!
SRX400/600

まずスリムでコンパクト、かつ先鋭的なスタイルに話題が集まり、ついで仕上げ、つくりの良さに多くの視線が浴がれていたSRX400/600。そして試乗後の感想は、もっぱら想像を超えた走りの良さ。ヤングからアダルトまで、幅広いユーザー獲得へ、みなさんの期待は大きくふくらんでいました。

●専門誌テストライダーのSRX400/600インプレッション
どこからでも伸びていくトルク感
これはスーパースポーツだ!

600ccといっても走り出せば250ccくらいの軽快さ。それと、どの回転域からも伸びていくトルク感がいい。1速高いギヤでコーナリングするとトルク感を楽しめておもしろいんじゃないかな。

■ミスターバイク誌 鈴木忠男氏



このインプレッションは、3月13-14日の両日、ヤマハが開催したSRX400/600専門誌発表試乗会で収録したものです。



身体に自然になじみ親近感のもてるバイクです。音とよいトルク感とよい単気筒の味が存分に楽しめ、また乗ってみると、SR*との違いも歴然です。それにフレーム剛性をはじめ全体のバランスが良い。乗り方次第ではスーパースポーツに負けない運動性能を発揮しますから。

■二輪ジャーナリスト 福元秀昭氏

●ヤママンのSRX400/600インプレッション

素直なハンドリングと スーパースポーツなみの走り

ト ルク感と排気音、それにイタリアンイメージのスタイル、そのうえ軽くクセのないハンドリング、これだけ揃えば単気筒のステイタモデルとして完璧でしょう。私としてはぜひバイクの解かるアダルトライダーに、ジックリと乗ってもらいたいですね。

■北海道ヤマハ(株) 旭川営業所・桶田進セルス

気 がまえず乗れますね。正直なところシングルなので走りの方はあまり期待していませんが、実際に乗ってみるとビックリ。良く走りますよ。スーパースポーツ・シングルという感じですね。それにマフラーのデザインなんかカッコイイし、予想以上にヤング層が狙えるんじゃないですか。

■ヤマハ東京(株) 神奈川支店・東神奈川営業所・岩谷雅夫セルス

ヤマハコースにおける'85ヤマハ新商品試乗会に先がけて、2月21日(東日本)、22日(西日本)の両日には、静岡県掛川市のつま恋に、全国各地から650店にのぼる販売店さんをお招きして新商品発表会が行なわれました。この特集に掲載した、ヤマハ発動機代表のあいさつは、いずれも、この大会で収録したものです。

「質」の追求で、 成熟期の二輪市場に対応

代表取締役社長
江口秀人



昨年は本当にヤマハとしても命をかけて、市場において「これはイイ、こんなバイクが欲しかったんだ」といっていただけるような商品をお届けしようと全社あげて取り組んでまいりましたが、おかげ

さまで大変ご好評をいただき、深く御礼申し上げます。

また、ご心配いただいておりますが、内容も予想以上に早いスピードで回復しております。これも昨年1年間、当社の意欲をそのまま正面から受けとめてくださり、転販にご協力いただいた販売店みなさまのおかげと感謝いたしております。

今年の7月1日をもってヤマハ発動機は、会社創立30周年を迎えます。これを将来に向かっての節目として、商品面でも、営業政策面でも本当に血のかよった、みなさまに納得いただける仕事をすすめていきたいと考えています。そのためにいま、すべての面に渡っての「質」をグレードアップしていく努力を、我われ自身がつづけていかなければならない。第一に人間の質からはじまり仕事の質、アフターサービスまでを含めた製品の質まで、あらゆる意味の質を向上させるよう努力をづけております。

今年度の二輪車の国内総需要は、220万台ぐらいであろうという前提のもとに仕事を組上げています。所帯当り普及台数からみても成熟市場になっていることはまちがいないでしょう。1700万台からさらに増えて2000万台といわれる保有状況の中で、代替需要なり、新規需要の開拓に我われとして政策的に、商品的に何をすることが一番正しいかを真剣に考えつづけ今後もやってまいります。

その中で、ヤマハが本当にヤマハらしい、他とはひと味ちがった商品、政策、販売網全体のつよさを築き上げていくために、より一層の努力をお約束するものです。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

くたばれ、お気楽パコーン!



何んにも手を出さず、結局ひとつとして熱中するものがない——そんな尻の青い連中はケトバすような気持で開発したのが、このSRX400/600です。

同じSRXでも、250はビギナーからベテランまで幅広いユーザーを想定しましたが400/600は、ターゲットを絞り、大人のバイクを追求しています。タンクやメーターパネルにかなりコストのかかる製造行程を採ったのも、大人のバイクにふさわしいグレード、質感を強調するためです。モーターサイクルを駆る楽しさを語るべき一番大切なものはなにか、このバイクに乗ると、それがはっきりわかりたいだけだと思います。

■間瀬 俊(第2技術部・技師)

プロジェクトリーダーから一言



よく伸びるエンジン、足つき性も最高

SRと比較すると、ずい分マイルドな単気筒だ、というのが第一印象です。振動が少なく、100km/hぐらいがとも楽しいスピード域というカンジなので、高速ツーリングも楽しめそうですね。流行にとらわれないライダーにはピッタリですよ。

■バイクショップ竹沢(栃木県) 桜井保文さん

タスクからシートにかけてのラインが最高にいいですね。雑誌で見た時より現物の方が断然カッコもイイ。エンジンもトルクが強力で、しかも良く伸びるし、足つき性もイイ。相当に幅の広いお客さんを対象にできるんじゃないかな、期待しています。

■オートサイクル・ヌマ(茨城県) 笹沼茂さん



●販売店従業員よりSRX400 600のファンタジック

異次元の走りとお安性を体験。
噂どおりの「ジェネシス」効果に感動!

FZ750

欧米向け輸出モデルのひとつと足早い発表もあって、発表試乗会以前から専門誌をにぎわし、期待もふくらむ一方であったFZ750。それだけにテスト走行後のみなさんの口からは、前評判どおりのパフォーマンスに対する満足の声がつぎつぎに聞かれました。

●販売店社長さんのFZ750インプレッション

ストレス知らずで吹き上がるエンジン
コーナーリングも思いのまま

ジ エネシスの成果でしよう、すべての面でいまままでにない乗り味があるね。メチャメチャ良くまわるエンジン、ストレスなんてまったく感じずに吹き上がっていくし、メカノイズもない。それと、コーナーで思い通りのラインを描ける操安性。前評判どおりの良きで、大いに満足しています。

■オートショップ・モリ(京都府) 森正己社長

エ インジンをウォームアップしている時から、まったくちがった回転フィールと瞬発力が感じられてビックリしました。足まわりの良き、ポジションの良きとマッチして操安性も最高。お客さんには「乗ってみてください」の一言でOK。セールストーク無用のバイクですよ。

■南アングル(東京都) 石井進社長

ナ ナハムらしいボリュームたっぷりの外観からは、想像もつかない取り回しの軽さに驚きました。もちろんエンジン性能も最高です。スタイリングも落ち着いているので、大型二輪の中心ユーザー・ヤングアダルトにとっては、まさに待望のバイクということじゃないかな。

■二輪センター・イワサキ(大阪府) 岩崎勝之助社長



●販売店従業員さんのFZ750インプレッション

どのギヤからでも余裕の加速
大型二輪の概念を打ち破った新しい乗り味

フ ラットな加速感がいい、ポジションが合わせやすい、足つき性もいい、速い。それにデザイン的にも、カウルが低くて、角型のライトとマッチしている。これなら大型二輪免許を持っている若い人は飛びつきますよ。私も欲しいですね。

■YSP新宿(東京都) 斉藤正穂さん

5 バルブエンジンはスゴイですね。どのギヤからでも、どのスピードからでも加速していく感じで、とてもシャープです。ハンドル位置もポジションに合っているし、重量感ある落ち着いたスタイリングと迫力あるカラーリングもいいです。すべての面で、現行の大型車を超えていますね。

■YSP川崎中(神奈川県) 戸沼謙一さん

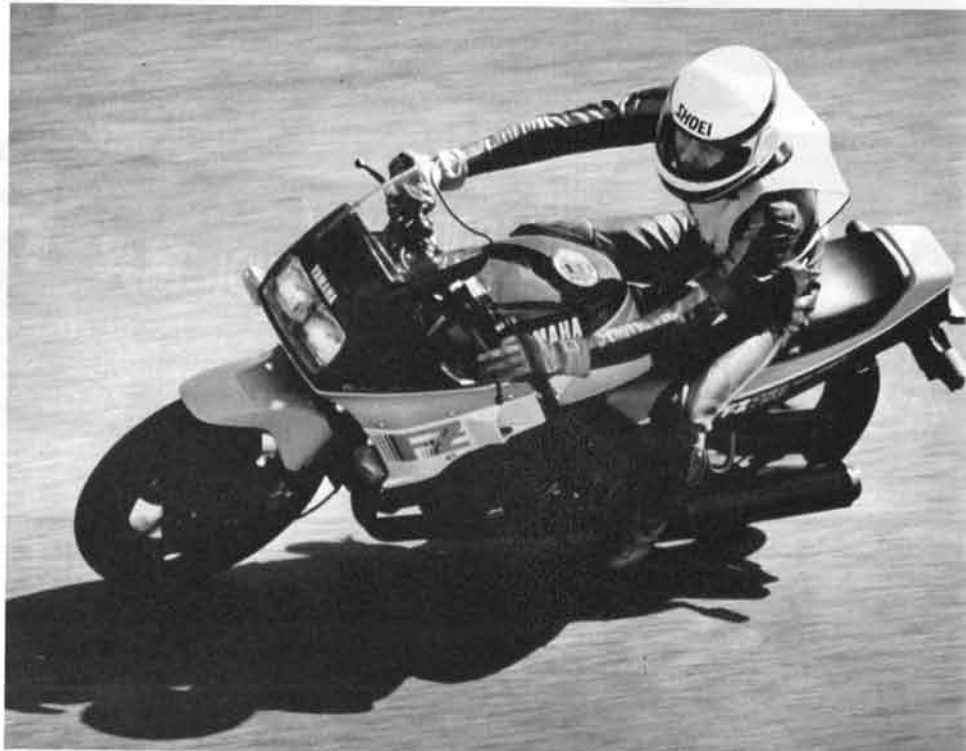
街乗りをも楽しめよう
低速トルクと扱いやすさ

ひとことと言うと、安心して身をまかせられるオートバイです。安定性は抜群で、パワーも十分です。それに初めて体験する、モーターのようにスムーズに回るエンジン。総合的にスケレた、完成度の高いオートバイです。乗っているうちに、何とかこの感じをそっくり販売店さんに伝えなければ、と思いました。感動しました。

■ヤマハ東京御東支店・柏営業所・打起新一セールス

エンジン思想から生まれた新エンジンは、その吹き上がり、その良さから高回転型のレーシーなものに感じましたが、低速域もとても安定していますね。あのトルクなら街中でも使いやすいと思います。それに無理のない姿勢でヒタリと決まるライディングポジションも、街中での走行を楽しくするんじゃないですか。

■ヤマハ東京御東支店・城北営業所・江間平次セールス



専門誌もFN750を絶賛!

●エンジン特性は、5バルブのおかげで高速になるほどトルクが生まれてくる感じ。オートバイ誌

●トルクの出方が絶妙なのである。全域にわたってトルクフルだが、それがタイヤのグリップや車体の挙動、さらにライダーの感覚に見合って発生するのだ。オートバイ誌

●FZ750がオーバードライブに
に至るまでの時間は、1とマシンと同等かそれ以上の速さを感じさせる。オートバイ誌

●6500回転を通過したあたりから、モリモリとパワー感がふくらみ、7000回転から1万回転までは、鋭くもなめらかに、一瞬にして吹きあがる。オートバイ誌

●やや硬めの乗心地、適度な低重心のもたらす素直なハンドリングは、街中から超高速域まで全く変ることなく維持され、その安定性第一主義のコンセプトを忠実に守った走りは、大型車の威圧的なところをほとんど取り除いてしまった。オートバイ誌

●ハンドリングはというと、これがとても軽い。いままでのヤマハ車の粘っこさがまるでないのだ。が、足の軽さの中にも直進安定性を味つけてあり、車体が直立から左右5°くらい傾くときは、ちよいと手応えがあるという心配り。この軽快さで、スバットとコーナーへ。しかし、そこから先は、フロントタイヤのグリップ力に頼り切った強引な回り込みではない。どちらかといえば、後輪から曲っていくようなオートドックスさ。オートバイ誌

需要の質的变化に合わせた
営業政策の展開

モーターサイクル事業部・国内営業部長
三浦勝彦



昨年の市場の流れをみると出荷台数は204万台。これはその前年の84%に当たる数字です。一方、実際の登録需要は230万台弱で、昨年1年間で約30万台弱の流通在庫が縮小されたわけで、昭和57年ピークにあった流通在庫も2年がかりで大むね調整を終えたと考えてよいでしょう。

また、230万台の販売推移をみても、異常寒波で春商戦の立上りが非常におくれたにもかかわらず夏場以降の堅調な回復を見ると、需要も完全に底入れ基調に入ったと見ることができ、今年の220万台という数字も固いのではないかとこの予測につながっています。

この中で、新規と代替が50%づつでクロスしていること、ユーザーが商品に求める意味合いが一段と明確になり、かつ多様化していることなどが需要の大きな質的变化として指摘できます。同時にこれは販売店さん店頭での変化にもつながり、商品以外の面で、そのお店からどんな価値が得られるのかという観点から販売店さんが選ばれるようになってきているという傾向も顕著です。

昨年からヤマハがY.E.S.S.というシステムを提案させていただいているのも、消費者の価値感の変化にご商売の場面でどう対応していただくか、そのひとつのカタチとしてご提案しているものです。'85年は、本日ご紹介の商品を柱とし、販売店さん、ディーラー、メーカーそれぞれのより大きな信頼にもとづいて、それぞれの関係をさらに突込んだカタチで考えてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●販売店社長からのFZ250エンジンプロジェクト

ビュンビュン回るエンジンだけでもヤングへの説得力は十分!

ものすごい吹き上がりの良さですね。気がついたら16000回転まで回っていましたよ。8000回転ぐらいからグングン伸びていく性能といい、排気音といい最高。400ccと変らないパフォーマンスです。
■ラブリールサイクル高井(奈良県) 高井敏仁社長

走りもデザインも期待どおりで満足です。取り回しも軽しい、これなら女性ユーザーからベテランまで、自信を持ってすすめられる。息長く売りたいね。
■バイクショップピープル(大阪府) 辻繁夫社長

乗り手を選ばないニュートラルなハンドリングは、ビギナーからエキスパートまで幅広いユーザーに通用すると思います。SRX250の扱いやすさに、RZ250のパワーをプラスした感じですね。
■フロントム(神奈川県) 青山敦夫社長

ギヤチェンジを忘れるくらいにビュンビュンと回るエンジンは最高。これだけでヤングはその気になっちゃうんじゃないかな。デザインの斬新さや足つき性の良さなど、色いろとメリットはあるけれど、エンジンだけでも十分に説得力があるよ。
■YSP三鷹(東京都) 古田哲郎社長



回したゾ16000rpm! 天井知らずの吹き上がりに驚異 FZ250フェーザー

レーサーレプリカモデルのピーキーなフィーリングに慣れたみなさんに、ひときわ大きな驚きを与えたのが、FZ250フェーザーのパワーフィーリング。「低速トルクもたっぷり」「3速、4速からでもアクセルを開けただけで伸びていく!」「どこまで吹き上がっていくんだろうって思わせるほどの伸びのよさ」の音が、とびかっています。

“4サイクル版RZ”それがFZ250フェーザー



開発プロジェクトチームの生い立ちはいまから一年半ほどさかのぼります。当時、私たちは、250ccスポーツ市場での「金の卵」を模索していたのです。

バイクに限らず何でも手に入れることができ今の世の中で、本当に魅力ある商品を送り出すためには、既成の常識を超えたなにかがあるもの。使う人の個性が十分に主張できるもの。でなければダメだという結論に達しました。

そこから、2サイクルを超える4サイクルマシンをつくらう。4サイクル版RZを。というコンセプトが生まれてきたのです。

ジェネシス思想のもとに設計を進めたのもこの目標のため。ぜひ「走り屋」さんに、奥深いFZ250のパフォーマンスを堪能していただきたい、と楽しみにしています。

■富永信義(第3技術部・技術)

平均年齢29才、ヤングパワーがくり上げた新世代のスーパークォーター

平均年齢29才、私たち6人が中心となってFZ250の開発を進めてきました。モーターサイクルはヤングの乗り物、ならばつくり手もヤングで、若い感性を存分に発揮してみようというチームが組まれたのです。既成の概念を全く超越したFZ250フェーザーはバイクファンのヤングに、私たち若いヤマハが贈る自信作です。

■FZ250プロジェクトチームメンバー



FZ250プロジェクトチームの6名

プロジェクトチームからひと言

業界を上げて 健全な環境づくりへ

常務取締役 小宮功



本日ご覧いただきました'85年のニューモデルいかがでしたでしょうか。

しかし、こうした一方で先に警察庁から出された道交法改正試案にみられるように、われわれの業界が非常に厳しい時代を迎えていることも事実です。必ずしもすべての面で、市民権を得られた状況になってはいないというのが現在の二輪車を取りまく姿です。

いまこそ、販売店のみなさまと我々が一体となってさまざまな課題を改善し、健全な環境づくりに取り組んでいかなくてはなりません。こうした厳しい状況の中で、ヤマハの営業サイドも販売店みなさまのご信頼に応えられる態勢づくりに全力をつくして取り組んでおります。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

いままこそ、販売店のみなさまと我々が一体となってさまざまな課題を改善し、健全な環境づくりに取り組んでいかなくてはなりません。こうした厳しい状況の中で、ヤマハの営業サイドも販売店みなさまのご信頼に応えられる態勢づくりに全力をつくして取り組んでおります。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

レース活動もさらに活発に

取締役モーターサイクル事業部長
森永國彦



'85年のニューモデルを総括すると、4サイクルパフォーマンス・FZについては、1990年代にも通用するエンジンを開発し搭載している。またテイストの世界

では、ヤマハラしさを強力に打出したSRX。それに新しいスクーターの機能を打出したボックスといったところが十分にご理解いただけたと思います。

このように販売店のみなさま、ユーザーの方がたが理解しやすい明確なコンセプトの商品づくりをこれからもつづけていながら同時に新しい需要を掘りおこすヤマハラしいユニークな商品づくりも推進してまいりたいと考えております。

また、最近では特にレースへの参加が、みなさまの販売面に及ぼす影響もきわめて大きくなり、走る実験室から走る広報室、PR室といった意味あいも強まっております。この意味でも、レース活動にも一段と力を入れて取り組んでまいります。お願い申し上げます。



軽 い感じで吹き上がるエンジン、タンクとカウルが一体となったスタイル。それに軽さと扱いやすさ。まさにシティーユースからレースまで、オールマイティに楽しめそうですね。ポジションが楽なのはロングツーリングにもうってつけでしょう。

■オートシヨップ山本(長野県) 山本美樹さん

「サー並に良く回るエンジンは最大のセールスポイントですね。スタイルもレーシー路線を追わずに美しくまとまっているし、車重も軽い。私は身体が大きいので、何に乗っても少し窮屈な感じがするんですが、このFZ250は、外観の割にはゆったりしていて、とてもいいですね。」

シティーユースからレースまで
オールマイティに楽しめる

●販売店従業員さんのLIVE REPORT(フジックマン)

**低速トルクも十分
ビギナーや女性にも
安心して勧められる**

●ヤマハマンのLIVE REPORT(フジックマン)

6 速のままでヘアピンカーブを曲ってみたんですが、40km/hぐらいいからでも加速していくんですね。たいへん気持よく回るエンジンで、トルクも十分。これならビギナーや女性層にも安心して勧められます。また、ベテランが乗っても存分に楽しめると思っていますので、販売店さんに自信を持って勧められます。

■ヤマハ東京 神奈川支店・東神奈川営業所・小林睦己セールス

□ ーギヤからトップまで、実にスムーズに伸びるエンジン。しかもスタイルも、いままでの概念を打ちやぶっていますね。走った感じもオートバイと一体化してんじゃないかなと思うくらいシックリときます。これからのクォーター市場のリーディングモデルとなることはまちがいない、と思いました。

■ヤマハ東京 神奈川支店・筑波営業所・沢野修セールス



テクの向上に合わせて奥深いマシンへの魅力を引き出せるFZ2500

最近の2サイクルマシンは、どちらかといえば4サイクルに近い滑らかな感じがありますね。ところが、このFZ2500のパワーは、むしろ本当の2サイクル的な加速を楽しめる。とくに8000回転を超えると、すごい加速感があるんですね。

もちろん初心者が乗っても楽しめる。まったくの初心者が乗るにしても、マシンの奥行きを深さを体験できる。それでいて自分のテクニックが向上するにつれて、マシンのもっている性能をだんだん引き出せるようになっていく。そんなマシンですね。

■84国際A級500ccクラス・ランキング3位
河崎裕之選手



FZR400に似た強力なパワーフィーリング

FZ2500フェーザーのパワーフィーリングは、私の乗っている400ccのFIIIレーサーFZR400に、どこか似ているようなところがありますね。



〈試走後、楽し気に印象を語りあう河崎(右)、江崎の両ヤマハラライダー。なお、両ライダーのFZ2500試乗感について、さらに詳しくは「フェーザー・プレス」にご紹介しました〉

■84国際A級FIIIクラス・チャンピオン 江崎正選手
8000回転以上では、2500ccの4サイクルとは思えないパワーを感じることができず。それに取らまわしがすごく軽い。身長160cmたらずの私でも足つき性は抜群。4気筒としては軽い車重におさえられていますからリターンなどもとても楽しんです。



マルチの味がエンジンから伝わってくる

技術の進歩とは恐ろしいものですね。表現は悪いけれどまるで化け物のようなマシン。実際下から上までパワーがあり、ヘタな400ccを超える運動性をもっています。

それにエンジンの実在感がある。タンクの下の方で、ただ高回転でまわっているというのではなく、マルチの味がエンジンから伝わってくるマシンですね。

操縦安定性も軽快で抜群。車体重量は軽く仕あがっているようですが、これは単に数値上の問題ではない。総合的なレベルでのこの軽さは、ビギナーにとっても扱いやすいんじゃないですか。

■ライダースクラフ誌 根本健編集長



〈このインプレッションは、3月13・14日の両日、ヤマハが開催したFZ2500フェーザー専門誌発表試乗会で取材したものです〉

超高速パワーと低速トルクの両立に驚き!



「1600回転までまわるエンジンと聞いていたので、はたして下の方はだいたいぶどうかかと心配していましたが、低速でのトルクに驚きました。高回転型エンジンとして上のパワーを出すのは簡単ですが、低速でもあれだけトルクがあるのはさすがです。

メーカーのいう「RZ2500を上まわる4サイクル2500cc」というのは決して過大表現ではないというのを今日は体感しました。前後16インチのマツチングもベストですし、ほんとうに文句のつけようのないバイクです。

■モーターサイクリスト誌 川島賢三郎氏

YAMAHA RACING SPIRITS

証言で綴るヤマハ挑戦の記録

シリーズ1

ヤマハ創立と2大レース制覇

「ヤマハの歴史はレースの歴史」といわれるほどヤマハは深くモータースポーツとかわつてきました。創業30年を迎えるいま偉大な先人たちの足跡を追いながら、いまなお一貫して流れるヤマハの「挑戦」のこころ、レーシング・スピリットを、改めてクローズアップしてまいります。



↑レースは富士山2合目のゴールまで24.2キロで争われた
→'56年第4回富士登山レースにおける「ヤマハ」圧勝。の専門誌広告



「よしっ、富士宮の酒という酒をありったけ飲むがいい。本当に皆よくやってくれた」川上源一社長(当時)が歓喜のあまり、思わず叫んだ。1956年7月、第4回富士登山レースでヤマハYAIが上位8位まで、YCIが5位までを独占するという快挙を成し遂げた決定的瞬間のことだった。ヤマハは前年度の第3回富士登山レースでも1位、3位、4位、6位、8位、9位とYAIを駆って圧倒的勝利に輝いていた。そして今回の勝利と、その強さたるやを日本中に知らしめるには充分の戦績であった。

1955年7月1日にヤマハ発動機として日本楽器から独立したヤマハは、創立早々にレースに参加することを決定した。理由は、

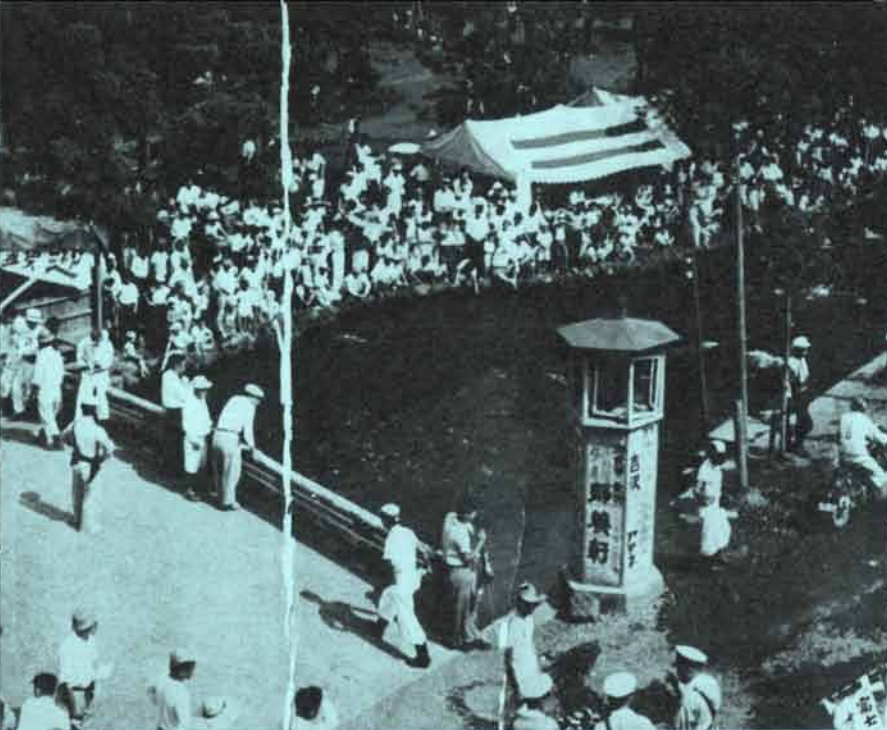
「なに、楽器屋がボンボンを作った？ 本当は走るのかね!?」という世間の半信半疑に慮るためである。この2年連続の勝利によって世間の評価は次第に高まり、売上げも順調に伸び始めた。

第3回からこのレースに参加した野口種晴氏(当時、義兄の経営する野村ヤマハからエントリ。現在野口モータース(横浜市)社長)は懐しみながらこう語る。

「そのボンボンというのはほかでもない、ヤマハの第1号車YAIですよ。ドイツの名車DKW・RTIを範として、それ以上の品質と性能を持ったオートバイを作ろう、ということが出来上がったのですが、その軽いこと、取りまわしが良くて意のままに走れる優れたオートバイでした。しかし、価格は13万8千円と当時としてはバカ高。同クラスのものより1~2万円は高かったから、ヤマハに対して半信半疑のテイラーは、YAIを売ることに今ひとつ抵抗があったんです。それがデビュー早々に富士登山で勝つたものだから、評価はどんどん上がり、ヤマハにとっては最高の船出ということになったわけです。事実、野村ヤマハでもその効果ははつきりと出てきましたね」

腕を組み、火鉢に足をのせた男

ところで野口氏が勤めていた野村ヤマハとは、ヤマハが生まれる以前から東京で英国のピセントやチェコのCZなどを輸入していた



第3回富士登山レースのスタート風景。右端の後向きの男性が、喫茶店の2階に陣どったヤマハチームの無線連絡スタッフ。背水の陣で臨んだヤマハは、ずい所に無線班を配置、ライバルの動向を克明にキャッチしながらレースを展開していった

老舗のオートバイ販売会社。実はこの社長野村順亮氏もまた、ヤマハの船出に貢献を残した1人であった。

「とにかくレースで他メーカーに勝ちたい。企業として発展するにはそれしかない、という緊迫感がヤマハには漲っていました。晴海の国際市の近くにいい舗装路ができたので、夜中に独自の走行テストをやりました。私なりのセッティングでしたがYAA1は飛躍的に速くなりまして、それでさっそくデータをテライプでヤマハへ送ったのです。当時ヤマハはツーといえばカーという状態でした。そうしたら川上源一社長が「すぐに来い」というのです。当時のことですからもちろん新幹線などなくて、夜行列車で浜松に到着したのは朝もやの中、午前4時頃だったと思います。工場に入ると守衛のような人が腕を組み、火鉢に両足をのせたまま椅子に座っていました。おっ、来たか、彼は徹夜で私を待っていたのですが、その人こそ川上源一社長だったのです。ヤマハの意気込みというものを社長自らの態度で感じ取り、それから夜に目を継いで必死で開発に取り組んでいたヤマハ技術陣に私も協力させてもらったのです。

YAA1が市販されて6カ月。第3回富士登山レースまでわずか6カ月というのびきならぬ状態で、結局私も一カ月間そこに閉じ込めりきりでお手伝いしました。このレースに勝ってヤマハは自信を持ちました。その勢いがあつたからこそ、第1回浅間高原レースにも勝てたわけです。

野村氏はつい昨日のことのように一気に語った。情熱をかけたことだけに、きつといつまでも心の奥に焼き付いているのだろう。

野村氏にとって運命のターニングポイントとなったのは、九州の水害チャリティレースにCZでエントリーし、強豪国産車に圧勝して4サイクルだけでなく、2サイクルのチューンにも自信をつけたこと。もちろんライダーの野口氏もこの勝利でライディングテクニックに確信を持つのだった。

これを期に野口氏は野村ヤマハのライダーとしてヤマハに所属し、第3回富士登山レースに参戦することとなる。野口氏にとって多少のレース経験こそあったものの、1回も乗ったことのないYAA1でこのレースに出ることになったわけだ。

もちろん富士のコースも初めて、おまけに前日までは浜北工場でエンジンのナラシをしていたほどで、文字通りぶっつけ本番のレースであった。

**白いユレフォームに
白のヘルメットが行く**

「それにしてもヤマハのレースに挑む姿勢は凄まじかったですよ。他のヤマハライダーは合宿で腕を磨いて必勝の構え。川上社長の発案で当時としては画期的な無線を使い、スタート地点、1合目、ゴールと3カ所にわたってタイムを測定して、秘策を練ったんです。ライバルの実力も手に取るようにわかるし、作戦まで立てたくらいですから」

野口氏の言葉からもヤマハはいかに勝利に執着していたかがわかる。勝つこと自体が生き残る最後の手段として、背水の陣の構えをとったわけである。

「当時のデータがあればわかりますが、1合目からゴールの2合目までは、私自身えらく飛ばしたことを記憶しています。しかし、途中で道に迷って転倒。これで結局9位になりましたけど、このガッツが評価されて11月の第1回浅間高原レースや翌年の第4回富士登山レースに、ヤマハとしてエントリーできたのです。あと先のことを考えず、思いきりやれたあの時代は私にとってもヤマハと同じようにひた向きの時代、必死だったと思います」



※写真提供：野口種晴氏、モーターマガジン社静岡支局

野口種晴氏は、野口モーターズ経営のかたわら「スポーツライダー」の監督として、またMFJ競技役員として現在もレース界で活躍中



→スタートに先がけて出場選手の富士宮市内パレードが行なわれた。先導役は、源頼朝の富士山麓での巻狩り装束のYA1

←第4回富士登山レースでYA1を駆る野口選手

野口氏も野村氏のような爽やかな顔を一瞬のぞかせた。

この第3回富士登山レースは、MFJ公認のもとに戦後初のビッグレースとして行なわれた。静岡県富士宮市の浅間神社横、神田川にかかる御手洗橋畔をスタートし、富士2合目に設けられたゴールまで、24・2キロのラフロードをつつ走るもの。

午前9時30分に第1号車がスタートすると以後1分間隔で1台ずつがスタートするタイムレース。白いユニフォームに白いヘルメットというひときわ目立つスタイルに2サイクル独特の軽快な排気音を響かせて、午前11時40分にヤマハに凱歌があがった。

「勝った!! ヤマハが勝った。万才!! 万才!! やったぞお!!」歓声の渦が巻く。夢にまで見た勝利でライダーもメカニックも応援団も涙でくちやくちやになっている。

何にも増して、この1勝目がこの世で一番嬉しい。全社あげて喜びをかみしめ、勝利に酔ったムードが会社中に充満したが、こうした中で早くも性能向上のための知識と経験が不足していたことを深く反省する動きも現われていた。そして、レースが終つてわずか3日後には、基本的に取り組むべき研究項目を20件以上取り上げ、遂時解決策を練つた。

同時に体制強化のために、日本楽器から有能な人材を導入し、約150名の陣容をかかえるヤマハ丸は怒濤の荒海に向かって再びこぎ始めたのだ。ちなみに7月の生産台数は260台、出荷は250台であった。

厳しいトレーニングからすばらしいチームワークが生まれた

第3回富士登山レースから4ヵ月後の11月に第1回浅間高原レースが行なわれた。その

3ヵ月前に「浅間レースまでにエンジン出力を2倍にせよ」という川上社長の命令にしたがって開発スタッフは、毎日徹夜の研究を重ねていた。

「他のチームはタラタラと練習するのに対して、やる時は徹底的にやるというかなりスバル的な練習方法をヤマハはとっていました。社長のビシッとした切れ味がここにも影響していたのかも知れません。練習は朝4時起床。牛乳と生卵2コの朝食をとってから体操。他のチームが目を見まますころには練習を終っている、という具合。すべてを早め早めにやっ

て何ごとにも先手を取るといふ雰囲気がありました。チームワークがとて良くて、しかも社長から渡瀬善三郎監督を通じて選手へと伝えられる指揮命令系統がしっかりとっていたことも勝因の一つでしょう」

野口氏のこんな言葉は、レースというものはマシンの性能だけではけつて勝つことはできないことを、何よりも物語っている。

エントリーは日吉昇、小長谷茂、野口種晴望月修、益子満、岡田輝夫の6名。

結果は日吉が1位に入り、以下4位までをヤマハが独占する。野口氏はこの時、3周まで最高の速さで他を圧倒していたのだが、トラルドでコースでストップしてしまう。追いついた望月選手が急ストップし、「マシンを譲る」と言い寄ってきたが、もちろんそんなことが出来るわけのものでもなく、彼にそのまま走るようにと言葉を返す。チームワークの良さというべきか、実にはのほのとした温かきチームだったわけである。

この時、背の高い1人の男が野口氏の許へやってきた。「ライディング・テクニクを教えてください欲しい……」という彼こそ、今も語りつがれる名ライダー伊藤史郎、その人であった。

1955年。ヤマハは創立と同時に、果敢にもふたつのビッグレースに挑み、そして勝つた。ヤマハの歴史を語るとき、この富士登山レースと浅間火山レースの勝利を外すことはできない。このレースに、企業そのものの存続がかつていたのである。(つづく)

各界専門誌編集長が語る当世若者気質
Magazine & Magazine
 Part. 4



ぴあ
 編集長 元村賢剛氏



『ぴあ』
 (発行)ぴあ株式会社
 (創刊)1972年7月に月刊誌として創刊、1979年9月より隔週刊誌にベースアップ。発行部数も、創刊時の1万部から現在は60万部と急上昇を遂げ、「情報」ブームの口火をつける。
 (読者層)下は12-13歳から、上は34-35歳までと幅広いが、中心は17-25歳の独身男女。
 (編集方針)とくに編集上ではターゲットを設定せずに、幅広く正確な情報を網羅することを心掛けている。また情報に価値基準はもうけず大資本のものから手作りなものまで同一線に記列。評価はあくまで読者の手にゆだねている。
 (編集内容)ジャンルとしては映画、演劇、コンサート、ライブ、アート、ニューディスク、FMを中心に、イベント、レクチャー、スポーツ、新刊本にいたる情報を紹介している。
 (編集長プロフィール)1972年4月に大手広告代理店のマクキャン・エリクソン博報堂に入社。マーケティング企画の業務に7年間従事する。1979年よりニューヨークに渡り、遊学。その後の3年間を「ぴあ」ニューヨーク特派員として活躍。1982年4月に帰国と同時にぴあ株式会社に入社。広告部長を経て編集長に就任。「ぴあ」には創刊スタートから外部ブレーンの1人として参加。1948年2月3日生まれ、血液型O型。

現代ほど「情報」がはん濫している時代はない。換言すれば、圧倒的な情報の渦の中に巻き込まれ、溺れそうになっている時代といえる。
 とらえて、出版界において初めて「情報誌」という言葉を生み出した『ぴあ』は、はん濫する情報をどう考えて、どう整理しているのだろうか。

完全網羅してこそ情報

「『ぴあ』の中には、どれくらいの情報が詰まっているのですか。」
 「はい、1号あたり6000前後でしょうか。ざっと見積ってみて。」
 「すごい量ですね。その中から読者は自分の行きたい所を見つける？」
 「そうです。というのも、私たちの考え方のひとつに、「完全網羅主義」というものがあるからなんです。」
 「いくら10の情報があっても、それが15や20の中の10しか提供できていないというのでは問題があるでしょう。ですから『ぴあ』では首都圏30キロ内におけるすべての映画、

フリーリングが、イコール、生活実感になっていく



演劇、コンサート、アート、スポーツ等のイベント情報を完全網羅しているわけですね。
 『ぴあ』の情報の提供内容は、5W3Hを基に置いてあるんですね。ようするに読者は自分の見たい映画や演劇の内容についての情報は別のメディア、たとえばテレビのCMや、あるいは雑誌の紹介記事といったものからも得ているわけですね。『ぴあ』では、その映画や演劇の5W3Hに情報の焦点を置いて、これをひとつでも逃がさないところで、『ぴあ』の役割を明確にしているんですね。」

なるほど、データバンクですね。コンピュータとか、キャブテンシステムとか、CATVとか、話題の流行語が聞こえてきそう。「実は、うちでも「情報センター構想」というものを考えているんです。」
 これは、この間、私どもが得た情報の集中



整理、伝達のノウハウを、さらに他の媒体にも活かしていくこうとするやり方です。すでにうちではキャブテンシステムに多くのデータを供給していますし、そういう意味ではキャブテンシステムも『ぴあ』も同一線上にあるという見方です。」
 情報の送り手としてのプロですね。それではうかがいますが、情報の送り手(メディア)というお立場から考えて、これからの社会で「情報」というものはどう変化していくと読んでいますか。
 「メディアの特異性を活かしていく限りは、無限の可能性があると思います。少なくともこの先、10年くらいはそういう意味ですます発展していくことでしょう。」
 具体的にいえば、テレビというメディアが出現した時にラジオが死んだかと思ったら、そうではありませんでした。つまり、テレビはテレビ的に、ラジオはラジオ的により進化していったわけで、メディアの特長に合わせた分だけ使用目的が多様になってきているはずですね。」



ヤリタガリ屋が増えてきた

最近5年くらいの間で特に増えた情報という、どんなジャンルのものがありますが「増えていると感じられるのが、演劇でしょうね。そして、産業的には斜陽といわれている映画です。そのほか、アートのイベントやライブ、パフォーマンスといわれているものも、若者の間で人気を高めています」
 具体的にはどんな形で盛りあがっているんでしょうか。

「斜陽といわれる映画なんですけど、これは映画館人口の伸び悩みを意味しているだけで、テレビやビデオで映画を見る人は逆に増えています。映画の裾野は広がっていると思います。映画館にしても、小さな映画館は増えていることです」。

映画についても、自主映画の上映が増えているんです。大資本をバックに從えて大劇場でやるのではなく、支えているのはグループ

やサークルといった具合に。自分たちの見たい映画を、自分達でチケットを売って上映するという動きが目立っているんです」

支えているのは、もちろん若い人たち？
 「中心はそうでしょう。この傾向は、演劇においても然りです。ホント、ものすごい数の小劇団がありますよ。ここで興味あるのは、観客と出演者の間に区別のないことです。それらの大半は、レベリックにはまだなものもあるでしょうが、演じる側も観る側も楽しみ方という点ではそれは上手になっていますね」

ヤリタガリ屋、出タガリ屋が増えているということですか？
 「そういうことでしょうか。スペースも増えています。それ以上に自分たちの手でやりたい人たちが増えているのでしょう」。

そして、アマチュアとプロフェッショナルとの境目がわからなくなってきた。と、同時に、ジャンルの区別、たとえば音楽と映像とアートと演劇、パフォーマンス……といった分野が重なり合ってきているんです」

あらゆるハードが完備された

そのブームの原因といいますと、どんなことがあげられますか？
 「これにはいろいろあると思います。原因も多様的です」。

ひとつには表現行為が日常的になってきた。彼らにしてみれば自主上映は、映画を見るのではなく、やる、わけです。よく比較されるのが、ホクラ全共闘世代と今の若い世代ですが、彼らの世代は確かに考えることは考えていたんです。自分のこと、世の中のこと、そのほかいろいろなことをよく考えていた。しかし、どういうわけか行動するまでは至らなかったんです。ところが、今の若い世代は、考える前に、行動があるわけです。彼らは、考える、世代ではなく、行動の世代なんです」。

私たちの時代でいえば、映画を作る時には



まず考えた。そして本を読んで勉強して、その方法論を見つけた。でも、今はそうじゃないと思います。映画を作ろうと思ったら、8ミリや16ミリのカメラやビデオがある。音楽にしても音楽専門スクールがある。そして録音するスタジオがあり、演劇できる小劇場がある」。

つまり、やる、という行為を支えるハードウェアが完備された時代ということですね。バイクの世界でいえば、トライアルをやろうと思えばトライアル車があり、ウェアがあり、マニュアル書があり、ビデオがあり、装備が用意されているのと同じです」。

「10数年前にCMで、フィーリング」ということが現われ、我われはそのことばの中で育ってきたわけですが、我われの場合は、フィーリングはあくまでフィーリングであって、そこは別に生活はあった。でも、今の若い人たちはフィーリングがイコール、生活実感になってきた。フィーリングで物ごとの価値なり生き方なりが規定されているんじゃないでしょうか」。

結婚がライフスタイルを変える

まさに、若者のパワーですね。

「個人的な考えですが、若者が若者でないかのラインは、未婚・既婚のラインでとらえています。やはり、このことはライフスタイルに大きな影響を与えていると思います」。
 「びあ」の読者層の大半は、下が12歳から上が35歳位までなんですが、その中でも25歳を過ぎたあたりから、やや下降線になるんですね。ようするに「びあ」離れが起こるんですけど、このラインは結婚年齢期と符合するんじゃないでしょうか」。



- * 1 = When(いつ)、Where(どこで)、What(なにを)、Who(誰か)、Why(なぜ)、How(どのように)、How much(費用)、How many(人数・数量)の略。
- * 2 = 電話で中央コンピューターを呼び出すと、蓄積された情報の中で必要なものがテレビの画面に映し出されるシステム。
- * 3 = 有線テレビ、難視聴解消のための同軸ケーブルを各家庭につなぎこんで、自主放送や、情報サービスにも利用しようという動き。

情報スクランブル

●お忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●表題とおりのよろず情報誌
『おつ便利本／東京シニイター「リアル」』

東京を中心とした種々雑多な情報が、10のジャンルに分けられて105項目も載っている。ここで内容のすべてを紹介するのはどう



てい無理ですが、食事のマナーからサーキットトライセンスの取り方、人生、マスコミ情報までという幅広さ。生活のガイドブックとして、また東京のシニイマップとして、活用法も自由自在な一冊です。
小学館／¥780

DISK

●ポリリウム最大限で聞いてみたい
『THE POWER STATION』

気温の上昇とともに、店内にもビートのきいた音楽を、そんな販売店さんにピッタリのレコードです。製作スタッフは知る人ぞ知る



あのロバート・バーマーとヤングに人気のデュランデュランのジョンとアンディ、シックのトニー・トンブソン、さらにプロデュースにバーナード・エドワーズを加えて、話題性も十分な一枚です。
CAPITOL (USA) ¥1280

WAVE・BEST'S

BGMも、ヤングユーザーへの大切な情報提供のひとつ。どうせ流すなら、とびっきり新鮮なものが良い。ということ、東京・六本木のニューメディアスペース「ウェーブ」の洋楽LPレコード、売上げのベスト5です。

- 1位・SHE'S THE BOSS (ミック・ジャガー)
- 2位・VISION QUEST (ザ・ファーム)
- 3位・THE FIRM (ザ・ファーム)
- 4位・VULTRVRE CULTURE (ザ・アラン・パーソンズ・プロジェクト)
- 5位・BEHIND THE SUN (エリック・クラプトン)

TOOL



●逆転の発想がホッチキスを便利にした
『スイベル1』

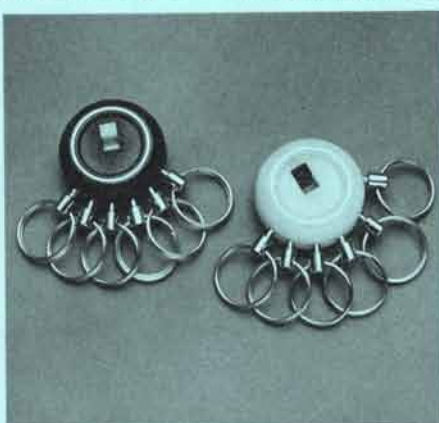
本を綴じたり箱を作ったりするのが、グインと楽になりました。このホッチキスのアン

ビル(曲げ台)は円型。今までの物と異なり、タテ、ヨコだけでなく、360度あらゆる方向からの使用が可能です。これを使えば、お店のオリジナルPOPツール作成も、ずっと楽になること受け合いです。
問い合わせ エトナ株 03(394)1712 / ¥250

GOODS

●ワンタッチは扱いやすさの代名詞
『スパイダー・キーホルダー』

ジャラジャラと数多くのキーを持っていても、目的のカギ穴に合うのはひとつのキーだけ。残るキーは余計なもの、余計なものを付けたままで小さなカギ穴を目指すのではわずらわしさも数倍。そこでこのキーホルダー。



6コのカギがカッコ良く納まって、しかも必要なキーだけをワンタッチで本体から外すことができますという便利モノなのです。
問い合わせ 銀座松坂屋別館・モノショップ 03(572)1111 内線3573 / ¥980

AUDIO

●いい音バッチリのいいお友だち
『ヤマハCDプレーヤー・CD3』

音質の良さとプレイ時間の長さで、レコードやカセットテープに変わり、急激に伸びているのがCD(コンパクト・ディスク)。早く



からこの新技術に取り組み、CDプレーヤー好調な需要確保に成功しているヤマハ(日本楽器製造株)が、第4のモデルとして「CD3」を発売しました。
ニューALPC回路による光ヘッドやデジタルフィルターがつくるクリアな音質に加え、離れた場所からでも簡単に操作できるリモコン機能をプラス。お忙しい販売店さんのBGM用にピッタリです。
日本楽器製造株／¥89800

EVENT

●人もマシンも耐久力が大切
『羽鳥4時間サバイバル・エンターテインメント第8回』

ビギナーが手軽に参加できるエンターテインメントとして、すっかりオフロードファン間に定着したこのレース、年を追うごとに参加台数も増えていき、昨年からエンタリー台数を制限するまでに成長しています。今年は250台で切りとかで、エンタリーご希望の方はお早めにお申込みを。なお、観戦には制限はありません。

開催期日／5月4日出 申込み先／ホンダ オート稲城・〒206 東京都稲城市大丸673 受付期間／4月11日(申込みは往復ハガキで)

♡修理依頼客に

「ゴミ袋」をサービス

手頃な価格で、お店の宣伝になって、しかもお客さまに喜ばれるもの。こう考えていろいろ捜してみてもなかなかコレはというモノが見つからないのがユーザーサービス用のプレミアム品。

横浜市にあるH店さんでは、このプレミアム品にビニール製の「ゴミ袋」を使って、お客さまのみならず、地域一帯での評判を高めています。

ゴミ袋といえば、都市で暮らす人たちにとっては生活必需品のひとつ。これに「ゴミのないきれいな街に」と大きなキャッチフレーズを入れ、その下には店の特徴やPRを印刷5枚1セットにしたものを、修理で来店したお客さま全員にさし上げています。

これを貰ったお客さまはシッカリと使用した後で、町内のゴミ集取場所へ。そして周辺のゴミ集取場所には、H店さんのPRが入ったゴミ袋が並ぶというわけです。一見するとバイクとはあまり関係のない品物のようですが、顧客サービスとお店のPRを兼ねた、なにとなくプレミアムですね。

♡ビデオテープの

無料貸し出しサービス

自店や自店クラブで、モータースポーツイベントを主催する販売店さんが増えてきていますが、この開催イベントのアフターフォローに、ビデオを活用しているのが埼玉県のお店さん。

自店のスポーツクラブがスクーターレースを主催して、幅広い人気を集めているI店さんでは、このスクーターレースのPRと、参加して下さったお客さまへのアフターサービスとしてレースの模様をビデオに納め、そのビデオを無料で貸し出し、たいへん喜ばれています。



ビデオは1回のイベントに3本のテープが用意され、市販されているレースビデオ30本と一緒に貸し出されていますが、1日に1人は必ずビデオを借りに来店するお客さまがいるほど、I店さんにとって定着したものとなっています。

♡スポーツスクーターはフルフェイスヘルメットで

「ジョグ」のヒットで、スポーツスクーターのジャンルが確立された感のあるスクーター市場。これと同時に、都市部の販売店さんでよく耳にするのが「最近になって、フルフェイス・ヘルメットをかぶってスクーターに乗るお客さんが増えましたね」という話。

「スポーツバイクのお客さまが、セカンドバイクとしてスクーターに乗っているためじゃないかな」とか、「スポーツバイクが買えないので、気分だけでも思ってフルヘルドでスクーターに乗っているのではないか」といった具合に、その分析も販売店さんによってさまざまです。

どちらにしろ、スクーターにフルフェイスヘルメットはお客さまにとって、マストアイテム

テム化しつつあるようなので、スクーター販売時には、オープンフェイス型のヘルメットと同時に、フルフェイス・ヘルメットも勧めてみる価値はありそうですね。

♡女性ユーザーを引き止めるワンポイント

近ごろ女性の間で人気を集めているのが、エアロビクス・ダンスとカルチャー教室。なぜ流行するのかとその原因を分析し、自店の女性ユーザー確保に役立っているのは広島県の販売店さんの奥さまMさん。

「女性というのは何をしても、誰かと一緒になら……」ということを言うんです。みんなワイワイとやりながら考え楽しめるようにすると、長続きするんですね。男性と同じような扱いをしていると、他店に行ってしまうというより、せつかく意を決して乗りはじめたバイクから降りてしまふんです」

というわけで、女性客の足止めにとレディース・ツーリングクラブを結成したMさん。今は50ccに乗る女性ライダーがメンバーの大半ですが、井戸端会議的なクラブ運営が功を奏

してか、みんなに応援されながら、ステップアップのための教習所行きをするメンバーも多く、その輪も広がっています。

♡男性顔負け女性ライダーのバイク意識

一方、乗車歴も十分に、中型スポーツバイクを華麗に走らせる女性ライダーの方はと言うと、バイクに対する探究心と知識レベルは男性顔負けといったところです。

YRSサーキットランに参加した女性ライダーの意見を聞いてみた結果「サーキットを走る時間が少なすぎる。最初から最後まで同じ走行ペースではもの足りない。私としてはもっとタイヤサイドを減らしたかった」とか、「インストラクターによって走行ラインが多少異なつたので、ちよつと走りづらかった」

など、オートバイを熟知していないと解らない、高度な言葉が返ってきました。もちろん服装も皮ツナギにフルフェイス・ヘルメットをピッタリ。こんな女性ユーザーには、接客態度も男性客並、いやそれ以上にしないかないと、満足されないのかも知れませんよ。



'85全日本選手権第1戦・鈴鹿ビッグ2&4

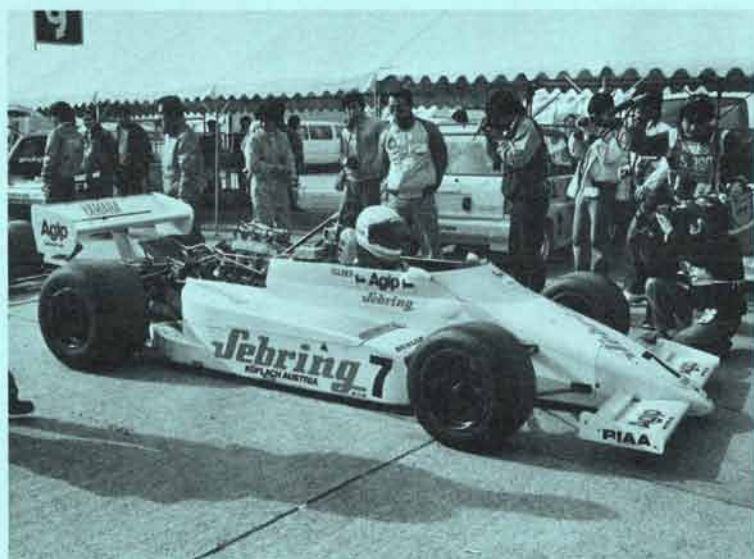
平 忠彦、V3へ好スタート。



ストレートで豪快にライバルをぶち抜くなど頼もしい走りを見せV3への期待を抱かせた平とYZR500



ジェネシス・パワーの片鱗をのぞかせたFZR750と上野真一



注目度No.1のヤマハOX66とジェフ・リース

成長株No1の伊藤敦志+TY250Rは、今シーズンも快調。2位でシリーズ戦のスタートを切った



全日本選手権トライアル開幕 伊藤敦志+TY250R、2位でスタート!

平彦とヤマハYZR500が、3年連続の全日本チャンピオンに向けて絶好のスタートを切った。国内モータースポーツシーズンの本格的な幕開けを告げる「鈴鹿ビッグ2&4レース」が、3月10日、快晴の鈴鹿サーキットに7万8千人の観衆を集めて開催された。

二輪部門のメインレースGP500ccクラスには、河崎裕之とYZR500の姿こそケガのため見られなかったものの、オーストラリアのW・ガードナーも含め15名のトップライダーが半年ぶりに顔をそろえた。

V3への期待が集まる、ゼッケン1・平は前日の予選第2位で、セカンドポジションからのスタート。トレーニング中のトラブルで負傷した左足をひきずりながらの平にとって、最大の難関は押しがけスタート。

しかし、好スタートを切って4番

手につけた平は、序盤ガードナー、木下恵司のNSコンビ、RGTの水谷勝と激しい首位攻防を演じて大観衆を湧かせた。その後水谷、木下をそれぞれ直線で抜き去った平とYZRは、トップを行くガードナーを追撃。中盤以降は、平の追い込みにレースの興味が完全に絞られてきた。

15周レースも終盤にさしかかった12周目、それまでコンスタントに5秒前後開いていたガードナーと平の差は4秒台へ、さらに13周目その差は3秒台へと急速に短縮されていった。両車の大接近ぶりは観衆の目にもはっきりとわかるほど、平の大逆転に期待が集まったが、時すでに遅く2秒64の差でガードナーにチェックカーが振りおろされた。

しかし、不完全な体調ながらの平のこの大追撃は、つめかけたファン

全競技のトップを切って、3月3日、全日本選手権トライアルシリーズが開幕した。

前日の雨がウソのように晴れあがり、早春の陽光がふりそそぐ岐阜県土岐市の特設会場には、5千人の観衆が詰めかけてトップライダーたちの妙技に拍手を送っていた。

5時間30分の持ち時間に20セクションを2ラップするこの大会で、TY250Rを駆る伊藤敦志(写真)が好調。昨年後半からの急成長ぶりをみせつけるみごとなトライの連続で2位に入賞。まずは好調なシリーズ戦のすべり出しをみせた。

全日本モトクロスも開幕

一方、3月16、17日の両日には、雨の中、2万3千人の観衆が埼玉県川島町の会場につめかけて、全日本選手権モトクロスシリーズもスタートした。

この中で、国際B級250ccクラ

注目のSUZUKI FURY

また、この第一戦でもうひとつの焦点となっていたTT-F1クラスには話題のニューマシンFZR750が登場した。

上野真一のライディングで注目を集めたこのFZR750は、2分26秒46と予選第2位の好タイムをマーク。決勝での活躍が大いに期待されたが中盤からのトラブルで惜しくも8位に終わった。

しかし序盤の混戦から抜け出して



3位をキープ。先行する2台を追い始めた際のスピードと抜群のコーナーリングは、さすがジェネシスを思わせるもの。ハイポテンシャルの片隣をのぞかせ、次回に大きな期待をつなぐものであった。

ヤマハOX66も登場!

さらに、この日同時に開催された四輪F2レースにも、話題のヤマハニューレーシングエンジンOX66がデビューして話題を呼んだ。マーチ

85Jが間に合わず、やむなく旧842シャシーにOX66を搭載してのデビューとなったが、英国人ドライバー、ジェフ・リースが一分59秒43と予選第7位のタイムをマーク。決勝こそトラブルのため1周目でリタイヤしてしまっただが、多くのハンディを負っての予選7位デビューは、関係者がそろって注目するところとなっており、とくに、5バルブ・V6、OX66のピックアップの鋭さは早くも話題のマトである。

世界選手権モトクロス

J・ヴィモンド優勝!

250cc級の世界選手権モトクロスシリーズも、3月10日の南アフリカGPで開幕した。

このGPで、YZ250を駆るジャッキー・ヴィモンド(フランス)が第1ヒート位、第2ヒート3位で総合優勝。35ポイントを上げて幸先きよいスタートを切った。

AMASーパークロスシリーズ

B・グロバー依然首位

一方、アメリカのスーパークロスシリーズは、3月10日のフロリダ州

4月のレーシングカレンダー

- 4月7日 ●全日本モトクロス② 熊本
- 4月14日 ●全日本トライアル③ 徳島
- 500ccモトクロス オーストリア
- 250ccモトクロス スイス
- 125ccモトクロス オランダ
- 世界選手権トライアル フランス
- 4月21日 ●全日本ロードレース③ 鈴鹿
- 500ccモトクロス フランス
- 250ccモトクロス オーストリア
- 125ccモトクロス イタリア
- 四輪・F2② 富士
- 4月28日 ●全日本モトクロス③ 島根
- 125ccモトクロス ベルギー

構です。お気軽にお寄せください、〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝課「ヤマハニュース」係 ☎05383(2)1111 内線2356]



0→ $\frac{1}{4}$ マイル 10.33秒!
V-MAX 世界最高記録を樹立

'85パリ・ダカールラリーの興奮さめやらす

日本よりもひと足遅れて本格的なバイクシーズン開幕を迎えた西ヨーロッパの国々には、いまオフロードランへの関心が急速に高まっています。というのも、この1月に行なわれたパリ・ダカールラリーで、XT600Zテネレを駆るヤマハ・ゴロワースチームのみよとな活躍ぶり、依然として話題を

呼んでいるためです。

パリのヴェルサイユ宮殿前から、地中海を渡り、サハラ砂漠を越えて西アフリカ・セネガルの首都ダカールまで、じつに1万キロを走破する世界で最も奇酷なこのレース、今回は140台スタートしたモーターサイクルのうち完走はわずか25台、完走率18%という厳しいものとなりました。しかし、この中でもヤマハXT600Zテネレは、上位10位までのうち214位、6、10位と半数を占める大活躍。

中でもアメリカ人として初出場のC・スターンズはスペシャルステージの最多勝利を飾って6位入賞。終始トップを走り優勝への最短距離にいたバクウが、ゴール目前のトラブルで後退すると、ヤマハ・ゴロワースチームのリーダーJ・C・オリビエが確実に2位入賞を果たしたのです。

とくにオリビエ選手は、フランスのヤマハインポーター・ソノート社のマネージャーとして、らつ腕をふるうビジネスマン。同時に当年40才ながら、ヨーロッパ最強のオフロードライダーとして知られています。

彼の活躍は、折からこのラリーに合わせセネガルでデイトナ大会を開いたベルギーのヤマハ・インポーター、ディレットレン・スポーツ傘下の販売店さんばかりでなくヨーロッパ中のヤマハマンの心意気を、大いにもりあげているのです。

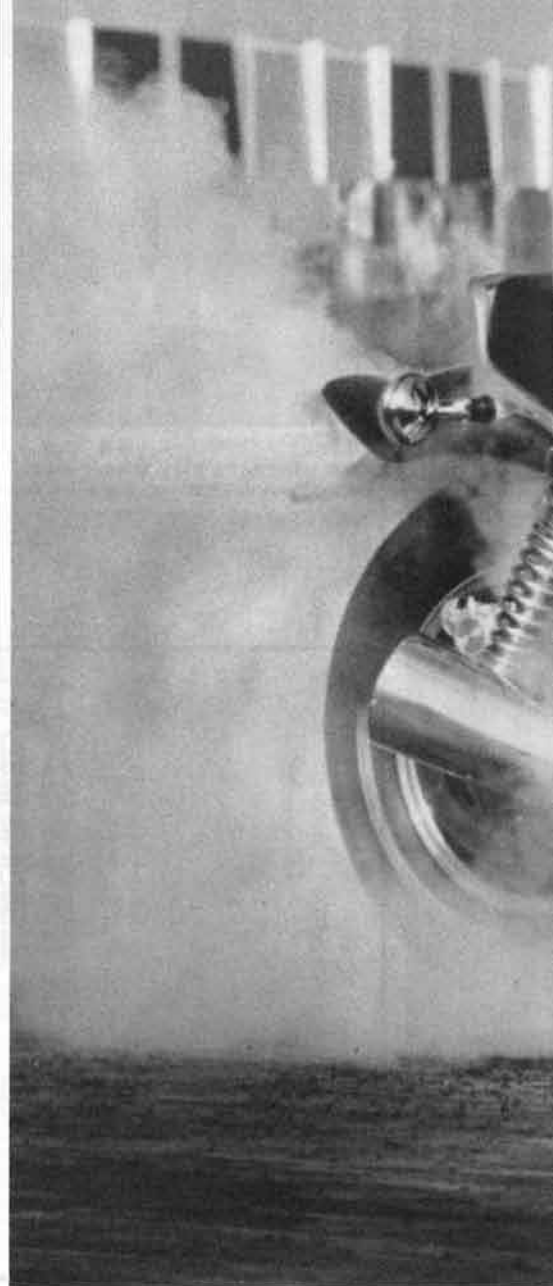


ヤマハライダーのリーダー的役割を果しながら堂々2位のJ・C・オリビエ(左)と3位入賞のイタリア人F・ピッコ

145馬力。水冷・V4・DOHC・4バルブ・1198ccという最強のパワーユニットを搭載して新登場した'85USモデル「V-MAX」が、0→1/4マイル・10.33秒という驚異的な世界新記録を樹立しました。

この大記録は、1月15日、サンフランシスコの南・ベイランドレースウェイのドラッグコースにおいて打ち立てられたもので、ライダーは昨年「FJ1100」を駆って、それまでの世界記録10.43秒をマークしたビーウィー・グリーンソン。

同時にグリーンソンのライディングで750ccクラスの世界新記録に挑戦した「FZ750」も10.78秒という新記録を樹立。そのハイパフォーマンスをみごとに立証しました。



ヤマハ4サイクルオイルFX新発売!

ヤマハから、新世代エンジンのためのハイパフォーマンスオイルが新登場します。その名は、ヤマハ4サイクルオイルFX。高品質摩擦軽減剤(FM)配合による強力な減摩作用と、エンジン内部をつねにきれいに保つすぐれた清浄分散性能、さらにオイル寿命をグーンと伸ばす酸化防止性能によって、エンジンを守り、同時にパワーアップと燃費向上も実現しました。

「FZ250フェーザー」「FZ750」をはじめとする4サイクルユーザーに、どうぞおすすめください。

- 粘度 / SAE 10W-30・20W-40
 - 指定車種 ヤマハ4サイクル全車適用(円心クラッチ車除く)
 - グレード / API SE
- 標準小売価格: 1ℓ = ¥1,350



お揃いですか?

'85春&夏ヤマハウエアカタログ

本格的なツーリングの季節の到来に合わせて、ヤマハでは春・夏物のライディングウェアを新発売しましたが、このほどその商品のカタログが完成しましたのでご紹介しましょう。写真は、上が'85春&夏「ヤマハラライディングウェアカタログ」、下が「チームヤマハカタログ」です。お店でのお取扱いは、ぜひカタログ専用バインダー(銀色、ビニールコーティング)にファイルしてお使いください。



店頭クリーンアップで春商戦へスタートダッシュ!

春商戦のダッシュに セールスマン会議開催



店内にトライ拡販ツールを設置して春商戦を盛り上げる多摩営業所のチーム。YSP小金井(川原末男社長)さんで

(ヤマハ東京機)
'85商戦のスタートダッシュは、店頭のクリーンアップから——とヤマハ東京機ではさる3月16日、店頭美化キャンペーン。オールヤマハ店頭出陣デー。を実施しました。
日頃は販売店さんとの交流も限られている営業所内の間接部門スタッフまで総動員し、担当セールスとチームを組んで販売店さんを訪問。店頭のクリーンアップをお手伝いしようというもの。ウエス、クリナー、ポスト、自賠責保険料告知などを持参して、この日は各チーム6、7店の販売店さんを訪問、春商戦のスタートを盛りあげました。

つくば科学万博は、ヤマハの高速旅客船で!
3月17日から開かれている「つくば科学万博」は連日盛況をみせていますが、会場への水上ルートとしてヤマハ製の高速旅客船「スーパージェット・かすみ」が活躍しています。これは科学万博の開催期間中、霞ヶ浦(土浦・潮来間)を1日4往復するもの。「スーパージェット・かすみ」は斬新なデザイン、最新の鋭いウォータージェット船で最高速度30ノット(約55km/h)のウォータージェットを搭載したFRP船としては、国内最大規模で、船内では科学万博会場の案内や周辺観光ガイド等のビデオ放映も行なっています。つくば科学万博へお越しの際は、ぜひご利用ください。



つくば科学万博への水上ルートとして活躍するヤマハのウォータージェット船「スーパージェット・かすみ」



ボート+バイクで アウトドアをエンジョイ ボートショーでも人気のAG200

マリンスポーツシーズンの幕開けを告げる恒例の東京国際ボートショー（財団法人日本舟艇工業会主催、運輸省後援）が、3月1日から5日間、東京・晴海の国際貿易センターで開かれました。

ボート、ヨット、水中翼船からマリン用品まで一堂に展示した海のヤマハは、ここでも人気1番。話題の新商品『つりっこ太郎』の脇には、ヘビーデューティモデル『AG200』も並んで、雰囲気をもり上げていました。

〔ヤマハ関西株〕一方ヤマハ関西株ではヤマハセールスマンの強力な意志統一で春商戦にダッシュをかけようと、管内のセールスマンおよび営業技術、部品責任者など170名を集め、先頃「セールスマン会議」を開きました。この日は、ヤマハセールスマンがキユート拡販、ビッグバイク拡販、そして各支店のパソコンを利用した販売店さんのユイザー管理など、それぞれテーマを絞った発表も実施。参加者全員、春商戦に向けて決意を新たに固めていました。

ヤマハスポーツの代表的名車「YDS」を、そのまま店名に冠した「YDS OKABE」さんが、先ごろ名古屋市中川区にオープンしました。このお店は、ブレイクイートレーシングチーム生みの親として知られ、過去17年間に渡ってヤマハのモーターズスポーツ普及活動に携わってきた岡部敏彦氏が、開業したものです。

「これまでの経験を生かし、これからはスポーツバイク販売からモーターズスポーツ普及まで、幅広い活動を販売店として展開していきます」

開店のお祝に駆けつけたライダーやレース関係者を前に、岡部社長は力づくよく語っていました。



「ヤング ドゥ スポーツ」のキャッチフレーズそのまま。レーシングマシンが並び、活気あふれる「YDS OKABE」さん。中央が岡部敏彦社長

スポーツ車販売から
モーターズスポーツ普及まで
YDS OKABEオープン



キユート拡販について発表する北川譲セールス（京都富）

テストランでノウハウ収集 Y.E.S.S.加盟店さんの 「沖縄二周ツーリング」

〔ヤマハ中部株名古屋東営〕2年目を迎えて日毎に充実していくY.E.S.S.活動。「お客さまへの遊びの提供の前に、まず我々が体験してみよう」という加盟店さんによるテストランが、各地で行なわれています。

そんな中で、名古屋東営管内の9店のY.E.S.S.加盟店さんは、2月24日から3日間、春満開の野原を、サンゴ礁輝く海岸線を走りながら、合同ツーリング開催のノウハウを収集。これからの活動に意欲を燃やしていました。



総力をあげて春需要のヤマを築こう!

春の全国二斉発表展示試乗会 4月13~14日全国77会場で一斉開催!

待望のニューモデルも出揃って、いよいよ本格的な85年商戦のスタートです。そこで今月は、この4月13日(土)、14日(日)の2日間、にわたって、全国一斉に開催される「春の全国一斉発表展示試乗会」についてご紹介しましょう。

全国77会場で開催されるこの一大イベントの柱は、'85ニューモデルの展示即売および試乗です。

会場には、いまスポーツバイクユーザーの間で話題の「ジェネシス」コンセプトから誕生したFZ750、FZ250フェーザーをはじめ、ポテンシャルシングル・SRX600/400を用意。

一方のスクーターファンに対しても、道具感覚の新スクーター・トライ、ボックス機能を備えたボックスを並べて、ヤマハの意欲、販売店さまの意気込みをお伝えします。

また、当日は、そのほかオートバイ用品即売会やテクニカル質問コーナー、中古車コーナー、VTR放映会、オートバイ情報誌・W

AYプレゼンツ……などの楽しい催しも開催。それぞれの市場に合わせた演出が行なわれるものです。(催しは会場によって異なります)

皆さまのお店でも、ぜひこの機会に積極的な'85ニューモデル拡販セールを展開して、春商戦の大きな盛り上がりをお図りください。

※詳しくは、担当セールスマンまでお問合せください。

SALES



スポーツバイク拡販のプレミアムにサウンドカセットをどうぞ!

「ヤマハ・エグゾースト・クルージング」

ジェネシス・サウンドをカセットテープに録音しました。ご予約感謝セールのプレミアムとしてご活用ください。

新しい収納機能のアピールで代替需要の掘り起こしを!

ボックス新発売告知キャンペーン



新しいカテゴリーのスクーター、本格収納機能を備えた「ボックス」の新発売告知を、皆さまのユニークなアイデアで展開してください。店頭演出のキメ手は、収納機能をいかに演出してユーザー・アピールするか。この収納機能の訴求については、コンクールも実施しますのでぜひご参加ください。

AD

「ジェネシス」思想を広く、正しくお伝えください!

FZ750、FZ250フェーザー誕生の基本理念となっている「ジェネシス」コンセプト。モーターサイクルに求められる「高性能」というものを見直し、それを従来のもとは異次元とも呼ぶべき高みへと導くために誕生したこのマシン作りのコンセプトを、より広く、正しくお客さまに浸透させていただくために、このほど以下のPRツールを完成しました。FZ750、FZ250フェーザーの購入予約客はもとより、その周辺の有力見込客に、



「YAMAHA FZ750 with GENESIS」

FZ750のプロモーションビデオで、18分ものです。FZ750の5バルブ技術の先鋭性やトータルパフォーマンスぶりを、実走シーンを通して迫力たっぷりにアピール。VHS、ベータの2方式を用意。店頭でのプロモーション用にご活用ください。



「PHAZER PRESS」

大きく前傾した水冷インライン4DOHC 16バルブエンジンと、ハイブリッドシエイブカウルに象徴されるFZ250フェーザー。その開発物語を通して、「ジェネシス」思想をお伝えするのがこのタブロイド版12ページのスペシャル情報紙です。店頭で、展示試乗会場で、ヤングのお客さまに配布。彼らのロコミ用の情報提供を展開してください。



「Special Issue "G"」 (ジェネシスのすべて)

ジェネシスの意味から、ジェネシスの考えに立ったマシン作りまで、文字通り「ジェネシス」コンセプトを全面展開して解説したのが、このスペシャルブック。A4版28ページのオールカラーで編集したこの小冊誌を、ぜひプレミアム等でご商売にお役立てください。

新宿ツーリングクラブ

YSP新宿中央・関口源一郎社長
(東京都新宿区新宿7-27-21)

走りを見ればクラブの内容が判る……とはよくいわれること。良き指導者のもとで、きちっとした活動をつづけているクラブは、マスツーリングの姿にそれがそのまま現われるというわけです。「新宿ツーリングクラブ」さんは、まさにそんなクラブの典型。ビシッと決まったときの走りのみごとさは、他のクラブも注目するほど……といえます。



和気あいあいと“走り”を追求

左から3人目が、副会長の原 明男さん、右隣が関口社長。お店のスタッフとの信頼関係もガッチリです。会長の井熊稔さんはこの日はお留守



これは昨年群馬県の赤城山へツーリングした時のスナップ



●キャリア16年

昭和45年の設立といえますから、もう16年のキャリアを誇る「新宿ツーリングクラブ」さん。それだけにメンバーの中には、ツーリング歴十数年という大ベテランもいます。

もっか会員は20名。21才の大学生から58才の熟年派まで顔ぶれの幅広いのも特徴。おまけに関口社長ご自身が、第2回浅間火山レース出場をはじめ、創草期のレース界で大活躍した経歴の持主だけにレース経験者も少なくありません。

クラブの会則などは特に設けず、年間2000円の会費で全員がしっかりと楽しんでいきます。以前は5000円の月会費も徴収していたのですが、集金のわずらわしさと払う人、払わない人のバラつきで、結局は年会費におちついてしまったのだそうです。

●活動も家族ぐるみに拡大

クラブの活動は、3月から10月までのシーズン中毎月1回の定例ツーリング、12月の恒

例忘年会兼温泉ツーリング。そして5年前からはこの活動に、クラブ主催の「バイク運動会」も加わっています。

「いつも男性陣ばかりが楽しんでいるのは奥さんやお子さんが気の毒。なんとかクラブ員が家族一緒に楽しめるものはないか、と考えて、「バイク運動会」を始めました。昨年は埼玉県・荒川の戸田橋近くの河川敷で開いたんですけど70名以上も集まったんですよ。みんな大喜び。それにも増して、バイクに対する奥さんやお子さんの理解が深まるんで、予想以上に大きな成果のあるイベントになっているんです」と関口社長。

●クラブ員そろって「走り」を追求

一方、月1回の定例ツーリングは毎月2日曜日の開催。山梨県の塩山、富士五湖、神奈川県箱根周辺が主な目的地。

1日の走行距離は約300キロ。早朝6時半にはスタートし、午後2時には帰宅するという「早出、早帰り」もこのクラブの特徴です。「暗くなったら走らない、雨が降ったら走

らない。これがうちの決まりです。降ってきたら途中でUターンです。無理なツーリングは決して楽しいことはありませんからね。

また、クラブツーリングの時にはヘッドランプとテールランプの2カ所に、横に赤テープを貼って行きます。こんなささいなことでも、同行者の連帯感を強め、チームワークを高めるにはとても効果があるんです」

こうして2時に帰路についた後は、メンバーの1人のお店でもある近所のお寿司屋さんに集まって、さつそく。反省会。ここでの話題は、もっぱらツーリング中の「走り」のこと。ライディング・テクニクについては一家言持つメンバーばかり。それにレース経験者が7名もいるとあって、テクニクの話、若いライダーへのアドバイスに話題は集中し、メンバー全員の「走り」に対する興味はほんどん深まっていくというわけだ。

「たしかに、走りに対する関心は高いですね。よく8ミリやビデオに収めてみるまで批評しあったり、1人1人も研究していますからね。だからこそバイクの醍醐味もより深く

味わえるんだと思いますよ」

●若い会員を増やしたい

他のクラブのお手本となるようなミニミニ隊列を組んで整然と走る「新宿ツーリングクラブ」のみなさん。その裏には、「こうした走り」に対する深い関心とあわせて、開催前の緻密な準備もあるのです。

つまり、毎月のツーリング前には、手づくりのコースマップを準備して参加者全員に配布。各自のバイクや参加の心がまえなどを確認し、さらに出発直前にも集合地点で簡単なミーティングを行なっているのです。

「私はクラブの1メンバーとして参加するだけ。たまに顧問として口を出すこともありますが、ただ会長と副会長にほとんど任せきりです。でも、今年あたりからは若い仲間をどんどん増やしていきたいですね」

と音欲的な関口社長。ことしもスポーツランドSUGOでのYRS参加なども予定され、メンバーのコミュニケーション強化と、テクニクに一段と磨きがかかりそうです。



オートショップちよだ / 山田隆春社長
 名古屋守山区大森 1-2509 ☎052(798)5588

「バイクオーナー＆アフター、充実したサービスで飽きっぽい」お客さまを夢中にさせる！」

RSS (レーシング・サービス・ショップ)としての高度な技術力とレース活動に加えて、YESS加盟店ならではの幅広いユーザーサービスで確実にお客さまをお店に定着させている『オートショップちよだ』さん。今月は山田隆春社長に、そんなユーザーサービスについてうかがいました。

バイクを一時の流行には終らせたくない

「尾張人の気質なのかも知れませんが、流行にとびつきやすく、そのくせ飽きやすい。ですから、名古屋というところは流行りすたりがとて激しいです。ファッションばかりでなく、どんなモノ

についても共通していえることですね。最近では、3年ひと昔、くらいのサイクルじゃないですか、流行の移り変わりが。それも最盛期はみんな同じカッコ、同じ考えですからね……」
 4年間の自動車セールスの経験を生かし、名古屋市の東、住宅の広がる守山区にお店を



「店に対する信頼度を高めて、お客さまが自信をもって友人に紹介できるような店に成長したい」と山田社長(右)

オープンしてちょうど3回目の春を迎える山田社長は、開口一番、商圏内のユーザー特性をこのように分析してくださいました。

そして、じつは『オートショップちよだ』さんが、ご商売の柱を「ユーザーサービス」に置いているのも、そうした市場特性を十分にふまえていることなのです。

「スクーター、スポーツともいま順調に伸びていますけれども、これもバイク本来の魅力が完全に理解されたうえでのことではないようなのです。公共交通機関が不便だから、という理由で乗っている人、あるいは、流行で乗っているにすぎない人が相当に多い。

当然、店の選び方も「安い店で買い、近所の店で修理を」というカタチなんです。ですから、熱が冷めれば、バイクなど見向きもなくなってしまうでしょう。

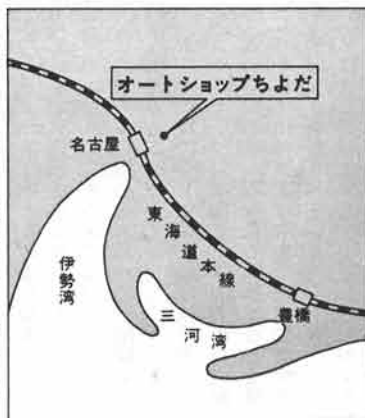
店としてはそれでは困る。そこでバイク本来の魅力を少しでもお客さまに伝え、飽きっぽいユーザーを「夢中」にさせようと考えたのです。一時の流行なんかに終らせることがないようにね！」

バイク本来の魅力を正しく伝えるために

こうした考えのもとに『オートショップちよだ』さんが、かねてから実行してきたのがツーリング活動。昨年のYESS発足と同時に加盟店となつてからは、その活動もさらに充実し、お店の「顔」として他店との差別化に役立っています。

「ツーリングクラブを結成しての活動は、2年ほど前からつづけています。毎月1回の日帰りツーリングが中心。1回の参加人数は10名前後です。

「楽しみながら、バイク本来の魅力を理解し



てもらおう」というのが主旨ですから、オープンな雰囲気でも新しいお客さまが気軽に参加できるように気をつけています。ツーリング先でも、ライディング・テクニクをアドバイスしたりして、バイクに対する興味を深めてもらおうと、いろいろ味つけもしているんですよ」

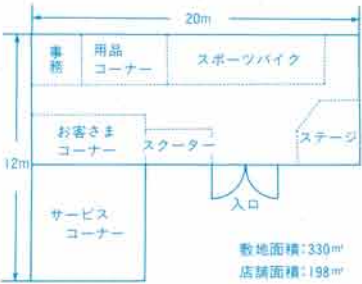
本格的レース活動もスタート

そうしたツーリング活動の中から、バイクに対する夢をふくらませてきた何人かのお客さまによって、今年からは『レーシングチームちよだ』も生まれ本格的なレース活動もスタートすることになりました。

「本当の魅力を理解して長くバイクに親しんで欲しい」という山田社長の考えは、3年目で確実にステップ・アップを果たしたといえるでしょう。同時にお店もヤマハ、RSSとして個性を強調することにもなったのです。現在は6名のお客さまがRZやFZを持ちよってスズカのプロテクションレースに出場しています。チームとしては、まだまだこれからですが、レース活動は店の技術力の裏づけともなつて、お客さんの信頼度アップにもつながりますからね。新しいうちの魅力とし



ショールーム奥のお客さまコーナーは、スポーツムードいっぱい



↑明るくゆったりとしたショールーム内部



1万7千部も発行されている名古屋地区のミニコミ誌『バイク情報』にも、毎月『オートショップちよだ』さんの広告が掲載されている



入口左手のホットコーナーには人気スポーツを展示

でも頑張りたいと思っています」
2月のデビューレースでは、「14位」と、まずまずのスタートを切った『レーシングチームちよだ』。これからは、ツーリングでバイクの楽しさを知り、「さらに本格的に……」と興味を深めていくお客さまの受け皿として、その活動の成果が大いに期待されています。

**新しいお客さまに対する
ビフォーサービスは
多彩な広告宣伝で**

一方、こうしたアフター面のユーザーサービスと並行して『オートショップちよだ』さんでは、新しいお客さまに対するビフォー面のサービスもしっかりと実施されています。守山区を中心とした商圏内に配布しているチラシとDM、また名古屋地区一帯に向けて行なっている二輪情報誌『バイク情報』の1ページ広告がそれ。

「チラシとDMを併用した広告はオープン以来つづけています。チラシは毎月1回、ヤマハの商品チラシを利用し、裏に月々の店のセールを打出しています。でも正直なところチラシによる誘店も限界かな……とも、そこで店名、店の場所、品揃えなどを知らしめるだけよしと割り切って、そのうえでの絞ったユーザーにDMでアプローチするようにしているんです。

また、スポーツユーザーに対しては『バイク情報』に1ページ広告を載せています。名古屋のライクなら誰でも知っている月刊二輪情報誌です。これも2年前からですが1回2万5千円と広告料も手頃ですし、電話の問い合わせや来店者が増えたりと効果も大きいんです。店の写真と地図も必ず刷込んで、安心して来店していただけるように気をつけています」

さらに、こうした広告を通じてお客さまサービスの面にも、店のツーリング活動やレース活動など、活発なアフターサービス活動の実態をどんどんと取入れて、『オートショップちよだ』さんならではの魅力を打出していきたいと、春商戦を目前に控えて、山田社長の意欲も一段とよりあがっていました。

■話題のコーナー

機能アップ、楽しさをアップ
'85ニューモデル専用オプション

話題のニューモデルも勢ぞろいして、いよいよ本格的な春商戦のスタートです。そこで今月は『トライ』、『ボックス』、『LAWSON』、『エーサー』、『FZ750』それぞれの商品魅力を倍増する専用オプションをご紹介します。



- ヤングの熱い視線を集める〈走り〉のスクーター『トライ』。その走り感覚・遊び感覚をさらに高めるのが、スポーツするPOPなオプション・ラインナップです。
- ウインドシールド／¥5,000
 - 左バックミラー／¥780
 - フロントスポーツバスケット／¥1,900
 - リアバスケット／¥2,000
 - リアボックス／¥8,900
 - リアバスケットバッグ／¥3,000
 - リアキャリア／¥1,500
 - リアマッドガード／¥700
 - サイドスタンド／¥1,500
 - リアファッションバスケット／¥3,300

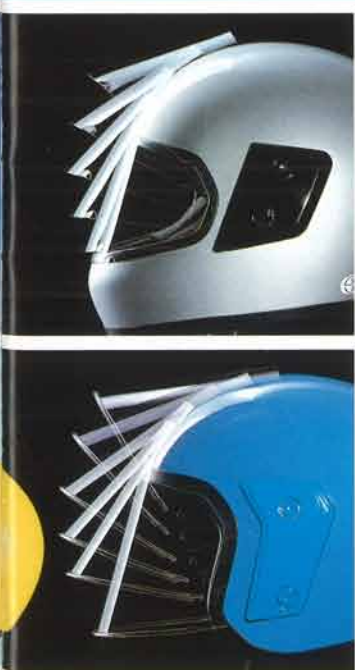
※リアボックスおよびリアバスケットの取り付けには、リアキャリアが必要です。

■ここが違うヤマハグッズ

ライト感覚なスポーツヘルメット
「ロールバーン」&「リーウインズ」

好評のヤマハ・ヘルメットシリーズに、2つのニューモデルが追加されました。フルフェイスタイプの『ロールバーン』と、ジェットタイプの『リーウインズ』。いずれもライト感覚あふれるデザインと充実した機能が売りもの。ここでは、この2モデルのヘルメット・メカニズムを紹介しましょう。

- 5段階ラジアルラチエット機構
新設計の5段階シールド開閉機構。1段階を微小開に設定したことにより、シールドのくもり止めおよびベンチレーション効果に威力を発揮します。(ロールバーン、リーウインズに採用)
- FRP製(ガラス繊維強化プラスチック)
ヘルメットの材質として最も理想的なFRPを使用。より強く、しかも軽さを実現しました。(ロールバーン、リーウインズに採用)
- スタイリッシュフォルム
エアロダイナミックステクノロジーを活かし、走行時の快適さとフォルムの美しさを両立しました。(ロールバーン、リーウインズに採用)
- ハードコートシールド
シールド表面に傷付き防止の硬化処理をほどこしたことにより、視界を常にクリアーに保ちます。(ロールバーンに採用)
- ベンチレーションシステム
ベンチレーション専用溝付ライナーを採用することにより、頭部から発散する汗や水蒸気をスムーズに流通させます。(ロールバーン、リーウインズに採用)
- ワンタッチ式あごひも
便利で簡単なワンタッチ式あごひもを採用。脱着のわずらわしさを解消しました。(リーウインズに採用)
- 内装生地「マーバス」使用
内装にマーバス(吸水、透湿性特殊内装生地)を採用。ベンチレーションシステムとのベストマッチングによって、汗などによる不快感を一掃します。(リーウインズに採用)



■インフォメーション

写真は、プリントオーダーシステムの対象ウェアのFⅢジャケットと2WAYジャケット



ご利用ください！ライディングウェアのプリントオーダーシステム

ユニフォーム需要を掘り起せよう！

自分たちのクラブだけのウェアを着たい！と望んでいるお客さまのために、このほどヤマハではライディングウェアのプリントオーダーシステムをスタートさせました。

このシステムは、クラブやチームのロゴをヤマハライディングウェアにプリントする新しいウェアリングサービス。昨今、急速に増大するチームやクラブ等のグループユーザーのニーズに添えてさらに大きなユニフォーム需要の掘り起こしをめざしているものです。

10人からオリジナルプリントOK。

ヤマハプリントオーダーシステムの概要は以下の通りです。

●対象ウェア/FⅢジャケット、2WAYジャケット、メンバーズジャケット、チームヤマハブルゾン

- オーダーロット/10着以上よりプリント可
- プリント部/バック(背中)のみ限定
- また、このシステムを積極的にご利用いただければ、お店のご商売に以下の効果も期待できます。最低ロットが10着なのでウェアのまとめ売りができる。
- クラブのメンバー全員を顧客にできる。
- ユニフォームがクラブの連帯感を深め、ライディング熱をいっそう盛り上げ、新しい本用品の需要を掘り起こす。
- これを武器として、お店がリードしてチームづくりが推進できる。
- 他店との絶対的な差別化が図れる——等。
- 付加価値の極めて高いこのサービスを、ぜひ皆さまのお店でも積極的に推進して、お店の個性化と経営基盤の確立をお図りください。
- ※詳しくはヤマハプリントオーダーシステムのマニュアルをご覧ください。

スクーターライフの新しい拡がりを提案する『ボクスン』を、さらにマルチパーパスに仕立てあげるのが、NEW感覚いっぱいの『ボクスン』専用オプションです。

- ウインドシールド/¥5,000
- フロントスポーツバスケット/¥1,900
- ファッションバスケット/¥3,300
- 左バックミラー/¥1,000
- インナーポケット/¥2,500
- リヤマッドガード/¥700
- サイドスタンド/¥1,500



FZ750

走りごころを駆りたてる5バルブパフォーマンス『FZ750』を、さらにレーシーな雰囲気演出するのが走りに徹したライディング・ポジションをつくり出すシートカウルです。

- シートカウル/¥15,000

FZ250 PHAZER

レーシーを超えた新しいカタチで、走りのパフォーマンスを感じさせる『FZ250フェーザー』。そんなFZ250の個性を、さらに引き立てるのが、以下の専用オプションです。

- シートカウル/¥12,000
- アンダーカウル/¥15,000
- エンジンガード/¥6,000
- レーシングスタンド/¥6,500



Roll Béhrn

●規格/JIS-B種 ●カラー/ホワイト、レッド、ブラック、シルバー ●サイズ/55-56cm、57-58cm、59-60cm、61-62cm ●価格/¥12,800

lea Illinds

●規格/JIS-B種 ●カラー/ホワイト、ブラック、ブルー、レッド、シルバー、イエロー ●サイズ/55-56cm、57-58cm、59-60cm、61-62cm ●価格/¥12,800

